

坂田関係史料

(名古屋大学・物理学教室 坂田記念史料室)

5. 坂田記念史料室（名古屋大学・物理学教室）

①史料概要・史料出典・史料室概要

史料概要：

坂田記念史料室では坂田昌一（1911 - 1970）の偉大な業績である、研究業績、研究ノート、講演、湯川や朝永など他の研究者との関係を示す資料や書簡類、日本学術会議関係資料、平和活動での軌跡、日中学術交流、そして多くの弟子たちとの関係を示す資料など、坂田の素粒子物理へ与えた影響および様々な科学者の社会的活動への貢献を伝える多くの貴重史料を整理保存している。

坂田昌一は湯川秀樹、朝永振一郎と並び、素粒子物理の研究分野において不滅の足跡を残した偉大な科学者である。それと同時に、科学者としての活動にも顕著な業績を残し、日本学術会議の創設時から中心的な立場で学術振興に貢献、科学者として平和活動に貢献、日中、日ソの学術交流への尽力、また原子力の平和的利用にも関与するなど多彩である。また、坂田研究室（E研究室）からは数多くの優れた弟子たちを輩出し、その後の物理研究にも貢献し続けている。

<坂田昌一 略歴>

- 1911 年 東京で生まれる（首相 桂太郎より「昌一」と名付けられる。）
- 1933 年 京都帝国大学理学部物理学科卒業
理化学研究所仁科研究室研究員
仁科・朝永・坂田 共同研究
- 1934 年 大阪大学理学部助手 湯川と中間子論の研究
- 1939 年 湯川と共に京都大学理学部へ移る
- 1942 年 「2 中間子論」提唱（坂田昌一、井上健、谷川安孝）
- 1942 年 名古屋大学理学部教授
- 1945 年 長野県富士見村へ研究室が疎開
- 1946 年 名古屋大学物理学教室憲章作成に中心的役割
- 1949 年 日本学術会議（第 1 期）会員。この後、1970 年まで会員
- 1950 年 「2 中間子論」により学士院恩賜賞 受賞
- 1954 年 コペンハーゲン大学理論物理学研究所（現ニールス・ボーア研究所）
に半年間滞在（当時ここに CERN 理論部門があった。）
- 1955 年 素粒子の複合模型「坂田模型」を提唱
- 1956 年 ストックホルム世界平和評議会出席
帰路ソ連、中国を訪問

- 1957 年 日本学術会議 原子核特別委員会 委員長
 原子力特別委員会 委員長
- 1958 年 第3回パグウォッシュ会議出席（ウィーン宣言作成に参加）
- 1960 年 素粒子の統一模型「名古屋模型」提唱（牧、中川、大貫、坂田）
- 1962 年 「新名古屋模型」提唱（牧、中川、坂田）
 この模型でニュートリノ振動を導入。牧・中川・坂田行列へ
- 1962 年 日本版パグウォッシュ会議（科学者京都会議）を湯川、朝永とともに提唱、
 第一回科学者京都会議を開催
- 1964 年 北京科学シンポジウムに日本代表団団長として出席
- 1966 年 名古屋大学理学部長
- 1970 年 永眠

史料室ではこうした坂田昌一の業績を、年代別、日本学術会議各委員会別、科学者としての活動別、書簡類、名古屋大学関係資料、E研究室関係資料などに分類し、坂田の業績を記念するとともに、科学史研究へ資料提供できるよう整理保存している。

坂田史料はすでに、資料目録第一集、第二集、蔵書目録が作成されており、史料室 URL より目録を見ることができる。史料室に保存されている史料は、この目録に登録済みの保存史料と映像・音声・写真資料と、その他に目録外資料、平和活動資料、坂田関係図書類、E研関係資料、湯川・朝永関係、坂田葬儀関係、所蔵物品などがあり、旧坂田史料室の資料棚とそこにあった各資料箱につけられた番号を基に整理されている。

資料目録第一集には、坂田の研究ノート、論文原稿、著作原稿、書簡などが、小川修三によって年度ごとに分類、整理されて登録され、坂田の研究業績だけでなくそこに至る過程、そして多くの著作や書簡から坂田の研究哲学、また科学者としての平和活動と坂田の平和への思い、日ソ、日中学術交流を切り開いた坂田の行動と信念などをうかがい知ることができる最も貴重な資料の目録となっている。ここに登録された資料はすでに電子化されており、希望者は閲覧可能である。次に資料目録第二集においては、日本学術会議とその中での原子核特別委員会と原子力特別委員会関係資料が登録されている。坂田は日本学術会議創立時から会員であり、原子核特別委員会と原子力特別委員会には委員長として長年尽力された。原子力の平和利用の問題に取り組み、また基礎物理学研究所など共同利用研究所の創設、巨大加速器施設の建設を含む日本の原子核物理将来計画において中心的な役割を果たされた。当時の坂田のこうした尽力と苦悩を知る資料が第二集には登録されている。その他に蔵書目録があり、坂田教授室に遺された書籍類が登録され、坂田の著作だけでなく当時、坂田居室に有った書籍類を知ることができる。

坂田史料室に収蔵されている資料の中には、未だ目録に登録されていない多くの貴重な

資料が存在する。このプロジェクトにおいて、未登録の多くの資料を整理し、データベース登録に加えた。目録外資料2群には、第二集登録以外の学術会議関係資料、素粒子論グループ資料などがあり、これらは、坂田が関係した学術会議の各委員会や素粒子論グループとしての動きについての資料となっている。また、平和活動資料群には、坂田の科学者としての平和活動・社会的活動を示す資料としパグウォッシュ会議、科学者京都会議、原水爆禁止問題、原子力平和利用、日中科学者交流、北京シンポジウムなど坂田が強く携わってきた活動の記録がある。その他に、坂田史料室所蔵の映像・写真、雑誌類、論文別刷、坂田の弟子たちとE研関係資料、所蔵雑誌類、葬儀資料など、全ての資料を整理、登録して保存している。

坂田記念史料室では坂田関係資料に加えて、名古屋大学物理学教室において同時期に活躍され、研究、教室運営においてお互いに協力し、影響し合ってきた、早川幸男（素粒子、宇宙物理学）と有山兼孝（物性物理学）が所有していた研究ノート、学術会議資料、教室会議記録なども所蔵している。

資料にはそれぞれ資料番号が付され、その番号付けは、史料目録第一集登録資料については、目録編集時に付された番号とその分類方法を用いている。

(年代 カテゴリー 形態 その中の番号) 分類記号

“年代”は西暦の下二桁

“カテゴリー”は以下の分類に従う。

- 01 原稿、手記、ノートブック、メモ、その他手書きのもの
- 02 印刷物（論文、別刷り、本、新聞、雑誌、およびそれらのコピー）
- 03 聞き書き、インタビュー（弟子のとった坂田講義ノートなど含む）
- 04 手紙類（送信受信、その他書簡コピー）
- 05 蔵書 06 記念品 07 その他

“形態”は所蔵資料の形態を示すためのものである。

- | | | |
|-------------|---------------|-----------|
| FL ファイル・ノート | FF 定型紙 | NB ノートブック |
| RE 論文別刷りなど | ME メモ類 | ZC コピー |
| TA 音源 | OR オリジナル、原著原稿 | |

“分類記号”によって内容について付記している。

- 学術論文、研究メモ、計算、コロキウムノート：a
- 総合報告、解説：b 科学論、方法論：c
- 講義ノート：d 体制、政策、原子力：f
- 国際交流、会議：g 平和運動、科学者：h
- 随想、人物評、旅行記、私的事項など：i
- 大学、学部、物理学教室関係：j

例) 1955 年の坂田研究ノート、その分類で 2 つ目の資料の場合

(55 01 NB 02) ac

と資料番号は付されている。

蔵書目録については、史料室書棚の書籍配列に従い、1 番から順に番号が付され、書籍に番号ラベルが付けられている。また、坂田の死後に、史料室に収められた物、寄贈された物、作業のノート等は a-“番号”と番号付けされ、これらには紙ラベルの貼り付けはされていない。

それ以外の資料については、旧史料室の棚の配置と資料箱の順番により分類され番号が付されている。旧資料室の棚は、

棚 B-1 : 資料目録第一集の貴重資料を収めた棚

棚 A : 目録第二集、その他の坂田昌一関連資料が収められていた棚

A-2 : 日本学術会議関係 (原子核特別委員会、総合事務局報、など)

A-3 : 日本学術会議関係 (原子核特別委員会、長期計画調査委員会など)

A-4 : 平和関係 (Pugwash 会議、日中学術交流、原子力、原水禁など)

A-5 : 原子力関係雑誌類

A-6 : 日本学術会議関係 (学術会議資料など)

A-7 : 論文別刷、坂田へ送られたプレプリントなど

A-8 : 日本物理学会誌等、雑誌類

A-9 : 書簡類、原子力特別委員会資料 など

A-10 : 坂田昌一葬儀資料

A-11 : 早川幸男関係資料

A-13 : 日本学術会議関係資料、名古屋大学教授会資料など

棚 C : 主に蔵書と所蔵学術雑誌類が収められた棚

棚 D : 日本語科学雑誌類、送られてきたプレプリントなど

棚 E : 写真、色紙、額装資料など

棚 F : 旧展示棚下収納庫 素粒子論研究が収められていた

棚 G : 坂田家にあった坂田所有書籍の一部

棚 H : 坂田教授室物品類

その棚にあった資料はその棚番号を基に番号付けされている。その他に、小川により別の箱に年代別に整理された資料と有山兼孝関係資料などは、その資料箱の番号に基づき、B 箱番号で表記した。箱番号は年代順に並んでいないが、それらの資料箱が保管されていた場所での番号付けに由来している。

史料室保存資料は上記の方法にて番号付けされ分類、保管されている。

史料出典：

史料室所蔵の資料は、坂田昌一の死後、名古屋大学坂田教授室に遺されていたものに加えて、信子夫人より寄贈されたものが主となっている。

第2次大戦中の名古屋空襲により坂田の自宅は焼失し、また、兵庫県御影町の旧居も焼失しており、戦前、戦中の資料の多くは失われてしまったため、坂田に関する資料は1932年のP.M.D. Diracの論文を書き写したノートが最も古く、それ以降、そして戦後から坂田の亡くなった1970年ごろまでの資料が主なものとなっている。

史料室概要：

坂田昌一は、1942年からその死去まで名古屋大学理学部物理学教室教授として在職した。坂田の死後、科学研究や社会的活動に関する資料を収集・保存することが企図され、その一つとして「物理学と方法」及び「科学者と社会」なる2冊の本が1972年に出版された。そして1973年名古屋大学理学部物理学教室は、坂田昌一の多方面に亘る多くの業績、活動を記録するために坂田教授室とそこに残された資料を保存する坂田記念史料室（SMAL）を設立した。

史料室において坂田昌一の遺稿・著作・諸資料、並びに名古屋大学物理学教室の諸史料を整理保存することで、学内外の科学史的研究に貢献すると共に、坂田昌一の数々の偉大な研究成果が現在の素粒子物理学に今も影響を与え、そしてその研究哲学、坂田研究室（E研究室）での教育は現在の名古屋大学に受け継がれて生きていることを伝えることが目的となる。

史料室の場所は、もともとの坂田教授室の場所から何度か移転し、現在は名古屋大学博物館サテライト ノーベル賞展示室の一角に位置し、坂田研究室で育った益川敏英、小林誠の2008年ノーベル物理学賞の原点が坂田昌一教授にあることを伝えるために、史料室所蔵の資料の一部を展示室にて展示している。

坂田記念史料室所在地

名古屋市千種区不老町 名古屋大学理学部 A 館 1 階 （A102 室）

（2011 年 5 月末に名古屋大学工学研究科中央棟・素粒子宇宙研究棟（ES 館）2 階へ移転）

② 坂田記念史料室 URL

<http://www.eken.phys.nagoya-u.ac.jp/introduction/sakata/sakata-j.html>

資料の閲覧は、科学史研究に関する場合においては、閲覧請求により公開する。

また、一部資料はノーベル賞展示室の展示にてご覧頂ける。

③ 資料請求・閲覧利用連絡先

名古屋大学大学院理学研究科 物理学教室 坂田記念史料室

〒464-8602 名古屋市千種区不老町

連絡先：sakatashiryu @ eken.phys.nagoya-u.ac.jp

④ 史料大項目カタログ

資料群番号	資料群名	概要
SMAL-01	坂田記念史料室 資料目録 第一集	小川修三により分類、年度別に整理され、目録第一集に登録されたもの。遺稿、著作、研究ノート、書簡、新聞記事など（電子化済み）
B-1-1-1	坂田昌一資料 No.1 (1932 年 - 1947 年)	卒業論文、ノート、武谷への書簡、2 中間子論論文原稿、疎開時のノート、第一回研究室会議挨拶、「物理学と方法」など
B-1-1-2	坂田昌一資料 No.2 (1948 年 - 1956 年)	新聞記事、武谷への書簡、研究日誌、コペンハーゲン滞在関係、研究ノート（坂田模型が生まれた瞬間のノート）など
B-1-2-1	坂田昌一資料 No.3 (1957 年 - 1962 年)	研究ノート、原子核特別委員会委員長報告、原子炉の安全性、論文原稿、科学者京都会議が開かれるまで、など
B-1-2-2	坂田昌一資料 No.4 (1963 年 - 1972 年)	中国学術代表団をむかえて、北京科学シンポジウム開会式における日本代表団長挨拶、「科学に新しい風を」、「素粒子論と哲学」「私の自然観」「第 14 回ソルベイ会議の思い出」など
SMAL-02	坂田記念史料室 資料目録 第二集	目録第二集に登録されたもの。 坂田宛通信、日本学術会議総会関係資料、原子核特別委員会関係資料、原子力特別委員会関係資料など

1) 坂田昌一宛て手紙類 (年代順)

- A-9-4-1 坂田昌一宛て手紙類 (1947-1966) 湯川から、野上より私信、サンパウロの武谷からの手紙など
- A-9-4-2 坂田昌一宛て手紙類 (1967-1970)

2) 日本学術会議 (SCJ) 総会関係資料

坂田昌一は日本学術会議創立以来 1970 年まで会員であり、学術会議諸活動の原動力となった原子核特別委員会、原子力特別委員会の委員として、後に委員長を引き継ぎ、1950 年代末から始まる日本学術会議の学術振興将来計画の中心的存在となった。

- A-6-4-1 日本学術会議 (1949-1951) 第 1-11 回総会議事録、資料綴
- A-6-4-2 日本学術会議 (1952-1954.1) 第 12-14 回総会議事概要、資料綴第 15 回欠、第 16 回総会資料綴
- A-6-4-3 日本学術会議 (1954.4-1955) 第 17-20 回総会議事概要、資料綴
- A-6-4-4 日本学術会議 (1956) 第 21, 22 回総会資料綴
- A-6-5-3 日本学術会議 (1957.1-4) 第 23, 24 回総会資料綴
- A-6-5-4 日本学術会議 (1957.10-1958.4) 第 25, 26 回総会資料綴
- A-6-5-2 日本学術会議 (1958.4-1958.10) 第 26 回総会資料、第 27 回総会資料綴
- A-6-5-1 日本学術会議 (1959) 第 28, 29 回総会資料綴
- A-6-6-1 日本学術会議 (1960) 第 30-32 回総会資料綴
- A-6-6-2 日本学術会議 (1961) 第 33, 34 回総会資料綴
- A-6-6-3 日本学術会議 (1962) 第 35-37 回総会資料綴
- A-6-6-4 日本学術会議 (1963.1-4) 第 38, 39 回総会資料綴
- A-6-1-4 日本学術会議 (1963.10-1964.4) 第 40, 41 回総会資料綴
- A-6-1-1 日本学術会議 (1964.10-1965.4) 第 42, 43 回総会資料綴
- A-6-1-2 日本学術会議 (1965.10-1966.4) 第 44, 45 回総会資料綴、第 46 回の 1 部
- A-6-1-3 日本学術会議 (1966.10-1967.4) 第 47, 48 回総会資料綴
- A-6-2-3 日本学術会議 (1967.10-1968.4) 第 49, 50 回総会資料綴
- A-6-2-1 日本学術会議 (1964.10, 1970.4) 第 51, 56 回総会資料綴、第 52-54 回欠
- A-6-2-2 日本学術会議 (1969.10) 第 55 回総会資料綴、会員のしおり

3) 原子核特別委員会関係資料

原子核特別委員会は、1949 年 4 月 28 日に原子核研究連絡委員会として発足し、1952 年 6 月に特別委員会と改組された。坂田昌一は、初代委員長 朝永振一郎の後を引き継ぎ、1957 年 1 月 20 日より病に倒れる 1969 年 1 月まで委員長の職にあった。

A-2-1-1	資料束 1-3 (1951-1957)	1957 年より坂田委員長
A-2-2-1	資料束 4-7 (1958-1959)	広大理論研合併問題、関西原子炉など
A-2-2-3	資料束 8-10 (1960-1961)	基礎科学振興 5 原則 総会声明案など
A-2-1-2	資料束 10-18 (1962-1963)	原子核研究将来研究提案など
A-2-1-3	資料束 19-25 (1964)	南極問題など
A-2-1-4	資料束 26-30 (1965)	将来計画シンポジウムなど
A-2-1-4	資料束 31-33 (1966-1970)	将来計画シンポジウムなど

3-1) 原子核特別委員会附置将来計画小委員会 (SKS) 関係資料

A-2-2-2	資料束 1-2 (1959-1961)	原子核研究将来計画関係など
A-2-2-4	資料束 3-7 (1962)	政府へ申し入れほか
A-2-1-4	資料束 8-14 (1963-1969)	文部省へ、将来計画の今後など
A-2-2-7	原子核研究将来計画関係資料 (補遺)	

3-2) 原子核特別委員会附置素粒子研究所準備調査委員会 (SJC) 関係資料

A-3-6-1	資料束 1-3 (1960-1962)	高エネルギー加速器研究所の検討など
A-3-6-2	資料束 4-8 (1963-1964)	高エネルギー加速器準備委員会など
A-3-6-3	資料束 9-12 (1965)	素粒子研加速器の機種など
A-3-6-4	資料束 13-15 (1965)	電磁石・電源関係 WG など
A-3-5-1	資料束 16-18 (1965)	素粒子研究所の計画概要など
A-3-5-2	資料束 19-20 (1965)	素粒子研究所計画報告書
A-3-5-3	資料束 21-23 (1965)	巨大加速器基礎研究など
A-3-5-4	資料束 24-26 (1966)	陽子シンクロトロン基礎研究
A-3-5-5	資料束 27-30 (1966)	素粒子研究所計画報告書
A-3-5-6	資料束 31-33 (1966)	諸外国における高エネルギー物理学
A-3-5-7	資料束 34-37 (1967)	加速器・測定器シンポジウムなど
A-3-5-8	資料束 38-41 (1967)	各ワーキンググループ編成など
A-3-5-9	資料束 42-44 (1968)	素粒子研究に関する研究体制

3-3) 原子核特別委員会附置将来研究体制小委員会関係資料

A-3-6-5	資料束 1-3 (1961-1964)	総合研究機構と共同利用研究施設
A-3-6-6	資料束 4-8 (1965-1966)	素粒子研究所の研究体制についてなど
A-3-6-7	資料束 9-14 (1967-1968)	研究体制小委員会の案など

4) 原子力特別委員会関係資料（1957 年より坂田が委員長）

日本学術会議の下、原子力特別委員会の前身である第 39 委員会が、講和条約（1952）の発効により可能となった原子力研究に関する議論（茅・伏見提案）をうけ、1953 年 1 月に発足した。その後、原子力平和利用の問題に対応するため第 39 委員会は原子力問題委員会となり、関連して放射線影響調査特別委員会も発足した。日本の原子力研究体制が整うのに応じて原子力特別委員会（委員長 伏見）が 1955 年に発足し、1957 年より坂田昌一が委員長になった。1960 年、原子力関係の 3 委員会は統合・整理され、坂田を委員長として原子力特別委員会となった。

A-9-4-3	資料束 1（1952-1954）	原子力問題委員会資料
A-9-4-4	資料束 2（1955）	国際原子力会議参加準備など
A-9-4-5	資料束 3－4（1956-1957.6）	原子力問題に関する懇談会など
A-9-4-6	資料束 5－6（1957.7-12）	関西研究用原子炉設置に関する資料
A-9-1-1	資料束 7－8（1958.1-6）	関西研究用原子炉設置について
A-9-1-2	資料束 9（1958.7-12）	原子力開発について政府に申し入れ
A-9-1-3	資料束 10－11（1959-1960）	原子力開発長期計画シンポジウム
A-9-4-7	資料束 12－15（1961-1963）	原子力潜水艦寄港に関する声明
A-9-4-8	資料束 16－20（1964-1969）	原子力開発利用長期計画の改訂

SMAL-03	坂田記念史料室蔵書目録	坂田教授室の蔵書目録として登録されている書籍など。一部に坂田没後に寄贈された関係書籍、史料室関係図書、ファイルなど含む。
---------	-------------	--

所蔵書籍の一部

113	物理学と方法論集 1（1972）	坂田昌一著作集 岩波書店
114	科学者と社会論集 2（1972）	坂田昌一著作集 岩波書店
115, 116	素粒子の探求（1966）	湯川、坂田、武谷 勁草書房
117	科学と平和の創造（1963）	坂田昌一著 岩波書店
118	自然科学辞典（1949）	武谷三男 霞書房
119	現代学問論（1970）	湯川、坂田、武谷 毎日新聞社
122	素粒子論の研究 I（1949） －中間子討論会報告－	武谷三男 編 岩波書店
124	原子核及び宇宙線の理論（1942）	湯川、坂田 岩波書店
125, 126	バーナル 科学の社会的機能	坂田、星野、竜岡 訳 勁草書房
127	新しい自然観（1974）	坂田昌一 大月書店

128	原子物理学入門	坂田昌一 勁草書房
129	物理学と方法（1965）	坂田昌一 素粒子論グループ
130	科学に新しい風を（1966）	坂田昌一 新日本出版社
132	平和時代を創造するために（1963）	湯川、朝永、坂田 岩波書店
133	思想 1963 年 1 月号	
	文明における現代科学の位置	坂田、大槻 岩波書店
447	学問・思想の自由のために（1950）	羽仁五郎編 北隆館
485	核時代と人間（1968）	坂田昌一責任編集 雄渾社
488	科学と平和の創造（1963）	坂田昌一 岩波書店
723	理学部将来計画第 7 回 シンポジウム記録（1969）	名古屋大学理学部
775	物理学と方法（1947）	坂田昌一 白東社
776	坂田昌一科学哲学論文集（1987）	巖波慈
777	新基本粒子観対話（1965）	坂田昌一
780	北京シンポジウムと京都の科学者達	序文 坂田昌一
785	物理学の方向（1949）	湯川、坂田ほか 三一書房
786	近代物理学概論（1954）	坂田、有山編 朝倉書店
REC-01	目録外資料 1	現在、電子化保存されている資料の内、 目録第一集、第二集、蔵書目録に登録さ れていないもの
B-1-3-1	目録外資料 1	物理学教室憲章、新聞切抜き、坂田墓碑 関係 など
REC-02	映像・音声・写真・色紙・物品	坂田記念史料室所蔵の映像、写真類、音 声資料など
B-1-5-2	映像資料：DVD で保存	恩賜賞の坂田理論、フランス核実験に対 するコメント、北京科学シンポジウム、 など
E-22-1	写真・色紙等	坂田関係写真、北京科学シンポジウム、 色紙など
B-1-5-3	音声資料	「兄弟対話」、「朝の訪問」、「現代の科学技 術の人類史的意義」、富山大学祭講演科学 者京都会議（竹原）、「私の古典」、原治語

E-22-2	額装色紙、その他	る、など 色紙額「兼聴則明 偏信則暗」、「科学者 京都会議勉強会寄せ書き」、湯川和歌賞 状・勲章：「勲二等瑞宝章」
C-16-6-1	写真コレクション 2	E 研集合写真、名駅にてローゼンフェル トを迎える、マルコフを囲んで、北京科 学シンポジウム、素粒子国際会議、中間 子論 30 周年、第 1 回科学者京都会議写真、 ソ連訪問、E 研究室の雰囲気など
REC-03	目録外資料 2	坂田記念史料室所蔵資料の内、目録に登 録されていない史料のリスト。
1)	日本学術会議関係資料・学術振興会資料	
A-2-4-4	日本学術振興会関係資料	流動研究員・奨励研究生事業実施世話人 会他
A-3-1-4	物理学研究連絡委員会	委員会資料（1949 年～ 1965 年）
C-13-3-1	日本学術会議関係資料 BOX1	Annual Report（1960、1963） など
C-13-3-2	日本学術会議関係資料 BOX2	学術会議各種資料冊子（1950-1960）
C-13-4-1	日本学術会議関係資料 BOX3	学術会議各種白書、報告、資料冊子
2)	第 4 部会関係	
A-3-4-3	第 4 部会会議資料（1951-1964）	
A-3-4-1	第 4 部会会議資料（1965、1966）	
A-3-4-2	第 4 部会会議資料（1967-1969）	
3)	運営審議会関係	
A-3-1-2	運営審議会記録（第 11 回－第 114 回）	
A-3-1-3	運営審議会記録（第 115 回－第 311 回）	運営問題特別委員会資料含む
4)	長期計画委員会関係	
A-3-2-7	長期計画調査委員会資料（1955 年－ 1958 年）	
A-3-2-8	長期計画調査委員会資料（1959 年－ 1962 年）	
A-3-2-9	長期計画調査委員会資料（1963 年－ 1969 年）	
5)	原子核特別委員会	
A-6-3-2	宇宙線研究者会議資料（1963 年－ 1969 年）	
A-6-4-2	核研電子シンクロトロン実験計画	委員会資料
A-6-4-3	原子核談話会・核研準備小委員会	原子核談話会通信など

6) 原子力特別委員会

A-2-3-6	原子力特別委員会関係資料Ⅰ	放射線影響部会議事録など
A-3-3-3	原子力特別委員会関係資料Ⅱ	力特委小委員会資料 など
A-3-1-1	原子力特別委員会関係資料Ⅲ	関西原子炉について など
A-2-3-2	原子力特別委員会関係資料Ⅳ	放射線調査特別委員会 など
A-2-3-6	原子力特別委員会関係資料Ⅴ	放射線影響部会関係資料 (66、67)
A-7-1-4	原子力委員会資料	学術会議への請願、1952 年－1958 年
A-7-1-1	原子力委員会資料	1960 年－1965 年
A-7-1-3	名古屋大学原子力委員会資料	1957 年－1968 年
A-6-1-5	国際原子力会議	原子力平和利用国際会議

7) 学問思想の自由保障委員会、

A-3-3-5	学問・思想の自由保障委員会資料	問題状況、要望書など
---------	-----------------	------------

8) 研究費委員会

A-3-3-6	研究費委員会関係資料	会議記録、委員会報告など
---------	------------	--------------

9) 基礎物理学研究所

A-3-3-9	基礎物理学研究所関係資料	(1952 年－1959 年)
A-3-3-1	基礎物理学研究所関係資料	(1960 年－1963 年)
A-3-2-3	基礎物理学研究所関係資料	(1964 年－1966 年)
A-3-3-3	基礎物理学研究所関係資料	(1967 年－1968 年)
A-3-3-2	中間子論 30 周年・素粒子国際会議	国際会議実行委員会資料、中間子論 30 周年記念講演 (坂田) など

10) 原子核研究所、

A-3-2-1	原子核研究所関係資料Ⅰ	高エネルギー研究計画委員会
A-3-2-2	原子核研究所関係資料Ⅱ	核研小委員会議事録 など
A-3-2-4	原子核研究所関係資料Ⅲ	低エネルギー専門委議事録
A-3-2-5	原子核研究所関係資料Ⅳ	1967 年－1969 年資料

11) 原子力研究所

A-3-3-4	日本原子力研究所関係資料	原研資料、CP-5 問題白書など
---------	--------------	------------------

12) 学術審議会

A-3-6-8	学術奨励審議会資料	
---------	-----------	--

13) 人文社会科学振興特別委員会

A-3-2-6	人文社会科学振興特別委員会資料	研究体制委員会議事録など
---------	-----------------	--------------

14) 共同利用研究所協議会

A-3-6-8	共同利用研究所協議会関係資料	共同研究協議会シンポジウム議事など
---------	----------------	-------------------

- 15) 総合事務局報
- A-2-4-6 総合事務局報冊子 (1961 - 1965、1967.3-5)
 - A-2-4-5 総合事務局報冊子 (1966 - 1968.4)
 - A-2-4-7 総合事務局報冊子 (1969.2-5, 1970.10-11, 1970)
 - A-2-4-8 総合事務局報冊子 (1967.6-8, 1969.6-11, 1970.1-8)
- 16) 素粒子論グループ
- A-2-3-1 素粒子論グループ事務局報 1956 年～ 1965 年度 欠 1959 年
 - A-2-3-4 素粒子論グループ事務局報 1966 年～ 1969 年度
- 17) KJR
- A-2-4-1 KJR ニュース (素粒子論グループ KJR) 1954 年～ 1968 年小冊子、ソ・米核兵器実験再開をめぐる、コールダーホール改良型発電炉の安全性について、
- 18) 高エネルギー同好会
- A-3-6-8 高エネルギー同好会関係資料 素研準備調査委員会議事録など
- 19) 日本物理学会
- A-3-4-4 日本物理学会関係資料 委員会議資料 (1960 年 - 1968 年)
 - A-3-4-5 地方大学問題ニュース 金沢、東北
- 20) その他
- A-6-3-1 宇宙空間研究特別委員会資料 宇宙空間科学の振興に関する資料
 - A-3-5-10 その他委員会資料 体制小委員会 (1963-1964)、高エネルギー将来計画資料、基礎科学小委員会 など
- REC-04 名古屋大学物理学教室会議録
- C-17-2-1 教室内会議 (北京シンポジウム) 名古屋大学での会議、報告などの資料
 - C-17-2-2 理学部教授会資料 北京シンポ、中国学術代表团来学 など
 - B1(BOX1) 教室運営関係資料 大学院設置に関する記録、学報など
- REC-05 平和活動
- 1) パグウォッシュ会議
- A-4-1-1 パグウォッシュ会議 1 パグウォッシュ第 1 回会議声明など
 - A-4-1-2 パグウォッシュ会議 2 科学者京都会議関係資料
 - A-4-1-3 パグウォッシュ会議 Proceedings 第 2 回、第 3 回会議 Proceedings
 - A-4-1-4 パグウォッシュ ニュースレター Vol.1-6, Proceedings (regional 会議)
 - A-4-1-5 パグウォッシュ会議 3 ラッセル声明、リンダウ宣言、京都会議

		声明、第7回、10回会議声明、第7回－10回会議資料
A-4-1-6	PUGWASH（冊子） 1967	J. Rotblat チェコ科学アカデミー
A-4-1-7	Documents of 3rd Conf.（冊子） 1958	第3回会議報告集 オーストリア
A-4-1-9	Proceedings of 13th Conf. 1964	第13回会議 チェコスロバキア
A-4-1-10	Scientists in the quest for Peace	J. Rotblat, MIT press
A-4-1-11	Proceedings of 14th Conf. 1965	第14回会議 イタリア
A-4-1-12	Proceedings of 15th Conf. 1966	第15回会議 エチオピア
A-4-1-13	Proceedings of 16th Conf. 1966	第16回会議 ポーランド
A-4-1-14	Proceedings of 17th Conf. 1967	第17回会議 スウェーデン
A-4-2-4	パグウォッシュ会議 4	声明草稿、第5回 Proceedings 他
A-4-3-3	第3回パグウォッシュ会議	湯川・朝永・坂田声明、ラッセル・アインシュタイン声明、パグウォッシュ声明 要訳 等
A-4-3-4	パグウォッシュ会議 5	パグウォッシュ声明の SCJ 支持など
2)	原水禁、世界平和評議会	
A-4-2-2	原子力、原子炉、原水禁	原子力関係冊子、雑誌など
A-4-2-3	原水協関係	第3,4回原水爆禁止世界大会関連
A-4-4-1	原水禁、世界平和評議会	愛知県原水協 など
3)	日中学術交流・北京シンポジウム	
A-4-3-1	北京シンポジウム 1964	北京科学討論会論文集など
A-4-3-2	訪中、日中友好 1	北京シンポジウム報告書など
A-4-3-6	訪中、日中友好 2	1957年日中代表団公式記録（小川）
A-4-3-7	日中学術交流 1964年	北京シンポジウム、ニュース など
A-4-4-2	日中学術交流 1956年～	日中物理学交流に関する報告等
A-4-4-3	日中学術交流 1964年～	66、68年北京シンポジウム、訪日代表団
A-4-4-4	北京シンポジウムアルバム 1964年	
A-4-4-5	日中学術交流 1966年～	66、68年北京シンポジウム
A-4-4-6	北京シンポジウム参加論文	
A-4-4-7	北京シンポジウム関係資料	1964年北京科学シンポジウム報告書
4)	平和活動	
A-4-3-5	平和活動	声明（湯川・朝永・坂田）、京都会議のよびかけ（湯川・朝永・坂田）、声明案原稿など

REC-06 坂田昌一著書・著作

雑誌、書籍になった坂田の著作所蔵目録
以外の書籍雑誌

所蔵書籍・雑誌の一部

G13-01	物理学の方向（三一書房）	「現代物理学の主流素粒子を追う人々」坂田
G13-02	学問・思想の自由のために（北隆館）	「現代物理学の発展とその環境」坂田
G13-03	原子物理学の現状	佐賀県立武雄高校物理研究班
G13-04	自然 1951 年 4 月号	座談会「仁科先生を偲んで」
G13-05	自然 1951 年 5 月号	「湯川理論展開の径路」坂田
G13-06	自然 1953 年 1 月号	「原子力問題と取り組む」坂田
G13-07	街のパンフレット 1953 年 2 月	「科学放談 原子と生活」坂田
G13-08	日本の原子力問題（理論社）	「広い視点に立って」坂田
G13-09	図書 65 号 昭和 30 年 2 月	「アンデルセンの国を旅して」坂田
G13-10	原子物理学入門（NHK 教養大学）	坂田昌一
G13-11	二十世紀の思潮（NHK 新書 2）	「科学」坂田
G13-12	荷役と機械 1955 年 11 号	「原子力と人類の将来」坂田
G13-13	科学通報 1956 年 7	「国際科学交流 日本理論物理学的発展現況」坂田
G13-14	自然 1956 年 2 月号	「ボーア先生の周辺」坂田
G13-15	科学 1956 年 4 月号	「座談会 研究費と研究体制」
G13-16	科学朝日 1959 年 1 月号	「原子科学者とウィーン宣言」坂田
G13-17	科学 1959 年 1 月	「パグウォッシュ会議をめぐる」
G13-18	自然 1959 年 7 月	「原子力基本法厳守に関する討論」
G13-19	世界研究 1960 年 Vol.2 No.3	「世界平和と科学者の責任」坂田
G13-20	教育評論 1960 年 3 月	「科学時代と人類」坂田
G13-21	科学 Vol.30 No.2 1960	「素粒子の統一模型」坂田
G13-22	物理学会誌 1960 年 6	「日本物理学会の脱皮を望む」坂田
G13-23	科学読売 1960 年 11 月号	「日本と欧州・二つの素粒子論対決 坂田一町田」
G13-24	東海テレビ 台本	「この道ひとすじに 坂田昌一」
G13-25	科学 1961 年 4 月	「座談会 素粒子論開拓の道」
G13-26	通運読本 時代の登音 1961	「原子力と人類の将来」坂田
G13-27	世界 200 号 1962 年 8 月	「(科学者京都) 会議が開かれるまで」
G13-29	とちぎ警友 126 号	「宇宙時代と原子力の将来」坂田
G13-30	日本の原子核	「将来計画のめざすもの」坂田

G13-31	自然 1964 年 11 月	「北京科学シンポジウムの印象」坂田
G13-32	自然 1964 年 12 月	「北京科学シンポジウムの印象」坂田
G13-33	思想 1964 年 12 月	「北京科学シンポジウム雑記」坂田
G13-34	新基本粒子観対話	坂田昌一
G13-35	紅旗 1965 年 6 月	「新基本粒子双的対話」坂田
G13-36	平和時代を創造するために（岩波）	湯川、朝永、坂田
G13-37	国語通信 1966 年 4 月	「科学の現代的性格と現代国語」坂田
G13-38	世界 1966 年 11 月	「中国の素粒子観と素粒子論科学に新しい風」坂田
G13-39	ニュースレター Vol.1 No3 1966	「ウィーン宣言のこと」坂田
G13-40	PHP 1966No.212	「湯川博士と朝永博士」坂田
G13-42	12 回創美 1967 年	「闘う精神について」坂田
G13-43	核時代を超える（岩波新書）	湯川、朝永、坂田
G13-44	大学村だより 第 3 号 1968 年	「野尻とスイス」坂田
G13-45	名古屋大学理学部 25 年小史	「まえがき」坂田
G13-46	サントリー記念帳 No.7	
G13-47	現代学問論（勁草書房）	湯川、坂田、武谷
G13-48	学士会会報 1970 年 - 4	「第 14 回ソルベイ会議の思い出」坂田
G13-49	Reminiscences of the XIV-th Solvay Congress	Shoichi Sakata
G13-50	自然 1971 年 1 月	「中間子論の 30 年」坂田
G13-52	科学 1971 年 3 月	「私の古典 エンゲルスの自然弁証法」
G13-54	中国画報 1973 年 5 月	「北京科学シンポジウムにおける坂田氏と周培源氏」
G13-55	新しい自然観（大月書房）	坂田昌一
G13-56	原子物理学入門（勁草書房）	坂田昌一
G13-57	SHOICHI SAKATA Scientific Works	
G13-58	自然 1981 年 11 増刊 追悼特集	「湯川秀樹博士 人と学問」
G13-59	顕彰録対中ソ外交物故功労者記念碑	
G13-60	人間天気図 斎藤信也（朝日新聞社）	「坂田昌一」
G13-S-1	岩波講座 現代 2 科学・技術と現代 「現代科学・技術の人類史的意義」	坂田
G13-S-2	科学と平和の創造（岩波書店）	坂田昌一
G13-S-3	素粒子の本質（岩波書店）	坂田昌一
G13-S-4	物理学と方法 論集 1	出版関係者署名あり

G13-S-5	科学者と社会 論集 2	出版関係者署名あり
REC-07	坂田氏関係記事を含む書籍雑誌類	雑誌、書籍に記載された坂田関係記事所蔵目録以外の書籍雑誌
所蔵書籍・雑誌の一部		
G10-03	人物天気図（朝日新聞社）1950 年	
G10-05	家庭よみうり 1954 年 5 月	「わたくしの顔」坂田写真
G10-09	国際写真通信 1958 年 7 月	「学問に生きる坂田昌一」家族写真
G10-10	毎日グラフ 1958 年 10 月 26 日	「戦争の絶滅に世界の頭脳集まる」
G10-11	人物花壇 好きなもの（講談社）	「若人の新鮮さ」坂田昌一
G10-12	中央公論 1960 年 5 月号	「創りだす日本人」日下実男 坂田モデル、名古屋モデルについて。“只野凡児さん”について記載
G10-13	日本人物画（オリオン社）	科学の顔 坂田昌一
G10-16	図書 12 1970 年	「凡児さんとゴム風船」朝永振一郎
G10-17	日本物理学会誌 Vol.25 No.12	「坂田昌一博士の業績」湯川秀樹
G10-18	故坂田昌一教授理学部葬 弔辞	
G10-20	世界 1971 年 1 月	「坂田昌一氏追悼」湯川秀樹
G10-22	日本物理学会誌 1971 年 3	「坂田昌一教授のおもいで」
G10-25	週刊朝日 1972 年 6-9	「日中学者に通い合った男のあつい友情郭沫若氏と坂田昌一氏の場合」
G10-27	人民中国 1973 年 1 月	「わすれがたい友情」周培源
G10-29	医療と人間と 1974 年 4 月	「夫・坂田昌一の闘病生活」坂田信子
G10-31	続 風貌（講談社）	「P75 坂田昌一、武谷三男」
G10-36	国語教育法 1981 年	「要約の練習課題に収録」
REC-07	坂田史料室所蔵雑誌類	坂田教授室に有った雑誌類
所蔵雑誌の一部		
C-18-1	Physicalische Zeitschrift der Sowjetunion	ソ連にて製本された物 貴重
C-18-3	Nature Vol.131-148	
A-5-3	Scientific Papers of the Institute of Physical and Chemical Research	No.899-1156
A-8-3	Proceedings of the Physico-Mathematical Society of Japan	Vol.17-26

D-21-1	Journal of the Physical Society of Japan	Vol.2 – 27
A-8-3-20	日本数学物理学会誌	Vol.9 – 17
	日本物理学会誌	Vol.1-26
D-21-3	自然	Vol.3-Vol.24
A-8-1	科学	～ Vol.39
F	素粒子論研究	Vol.0 Vol.1-42
A-8-2-1	物理学史研究	Vol.1-5
A-8-1-4	科学史研究	2 号 –
A-5-4	各国原子力情報、原子力関係資料、 原子力調査時報、原子力情報、 原子力内外情報など	
A-5-1	原子力海外事情	Vol.1-11
A-5-2	原子力国内事情	Vol.1-11
A-6-5	日本学術会議月報、日本学術会議ニュース	
A-6-4-9	原子力シンポジウム報文集 第 1, 2, 3 回	
REC-10	坂田史料室所蔵 論文リプリント類	坂田の論文別刷、E 研関係者の論文、坂田へ送られてきた論文別刷、プレプリントなど
A-7-3-1	坂田所有の論文、プレプリント	Pauli、Heisenberg、Oppenheimer、Chew 関係論文、Bohr 関係資料、Rosenfeld、T.D.Lee 論文、坂田論文別刷、武谷三男論文別刷、南部陽一郎関係論文 他
	その他、論文別刷、プレプリント類の束、箱	
REC-11	目録外資料 3	
C-16-5-1	書簡類ファイル 1	資料目録第二集登録以外の書簡
A-9-6-2	書簡類ファイル 2	資料目録第二集登録以外の書簡、朝永よりノーベル賞の報告
C-16-5-4	書簡類ファイル 3	中学生からの質問「死の灰」坂田講演について、中学生への回答原稿、木庭の手紙など
A-9-3-4	坂田氏資料 1	位記（従三位）、論文コピーノートなど
A-7-3-2	坂田氏資料 2	量子力学講義ノート（岐阜大学用）、坂田

		論文別刷りなど
A-7-3-5	坂田氏資料 3	仁科記念財団設立関係、コペンハーゲン 国際会議出席関係、中日文化賞賞金袋
A-7-4-2	坂田氏論文別刷束	
A-7-3-3	坂田史料箱	山田英二卒論、河辺六男卒論、周からの 手紙、名大公募への応募、場の理論研究会、 坂田国際会議出席関係資料、日本学術会 議関係 など
A-4-2-1	大学関係、学術研究会議など	
A-4-2-2	科学者の平和活動に関する資料	日本学術会議の声明、坂田の手紙原稿、 素粒子論グループ声明、第10回パグウォ ッシュ会議声明訳、ソ連政府声明につい て討議 KJR、ゲッチンゲン宣言全文、ゲ ッチンゲン宣言への支持、パグウォッシ ュ会議声明支持 など
C-16-5-2	第14回高エネルギー物理学国際会議 と Pugwash 会議出席の旅費申請	
C-16-5-3	1956年ごろの書簡、メモ、名刺	ソ連、中国訪問時の資料
C-16-5-6	坂田氏本人の名刺箱	
C-16-5-7	名刺箱に入っていた書簡	木庭の手紙「日中学術交流の下準備（北 京にて）」、日中交流準備会からの手紙コ ピー、ラッセル声明支持のよびかけ など
C-16-5-8	書簡類（年賀、greeting card）	
D-21-6-1	学生レポート（量子力学）	
A-9-3-5	Cinquantenaire du Premier Conseil de Physique Solvay 1911 Bruxelles 1961	第14回ソルベイ会議写真含む
A-9-3-6	Cinquantenaire de l' Institut International de Chimie fonde par Ernest Solvay 1913 Bruxelles 1963	ソルベイ会議写真
SMAL-04	小川により年度別に整理された資料	小川修三により年別に整理された坂田資 料コピー、新聞切り抜き、など。主に、 目録第一集に登録された資料のコピーで、

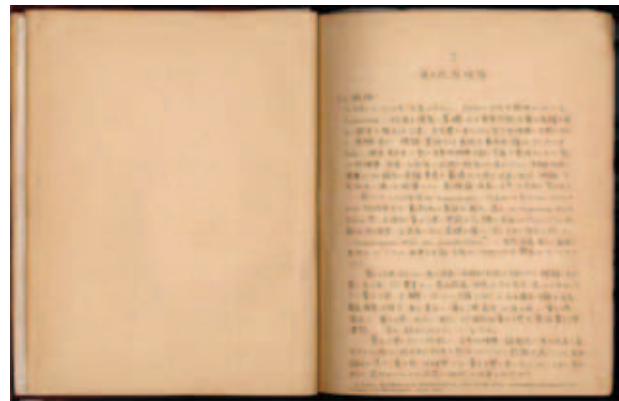
	新聞切り抜きや雑誌記事などは現物であり、この中だけにしかない資料も多く存在する。
B17(BOX17) 坂田昌一氏資料 (1933-1947)	新聞切り抜き「湯川粒子発見まで」甲南、「研究室会議の設立」学生、「2 中間子論完成」科学文化、「名古屋の旅から 武谷」民報、「2 中間子論」毎日、「理論物理学のトピック」中日など
B22(BOX22) 坂田昌一氏資料 (1948-1952)	新聞切り抜き「非凡な只野凡児」朝日、「湯川博士と私」朝日、「学士院賞に想う - 賞金でピアノを」新東海、「書斎の顔」中日など
B24(BOX24) 坂田昌一氏資料 (1953-1956)	新聞切り抜き「国際理論物理学会に望む」朝日、「書斎拝見」朝日、「ただ一度の幸」朝日、「世界平和名古屋会議で演説」中日、「コペンハーゲンにて」京都、「デンマークとボーア博士」、「絵のような美しさコペンハーゲン」毎日、「二つの原子力利用」河北、「アンデルセン」朝日、「北欧通信」、「ヨーロッパを旅して」朝日など
B26(BOX26) 坂田昌一氏資料 (1957-1961)	新聞切り抜き「ゆっくりいそげ」西日本、「無題」ちくさ、「素粒子論グループ声明」、「科学者の友情実る」毎日、「坂田声明をめぐって」中部日本、「素粒子の成り立ちを解明」朝日、「名古屋模型を発表」日経、「話題の名古屋モデルとは」朝日、「ローゼンフェルド博士をむかえて」中日、「ほしい大型加速器」毎日など
B25(BOX25) 坂田昌一氏資料 (1962-1966)	新聞切り抜き「民主的な研究室」朝日、「ボーア先生を思う」朝日、「世界の学者が反対」大学、「パグウォッシュ会議にて興奮」朝日、「中国学術団をむかえて」朝日、「坂田氏の研究態度はどの点ですぐれているか？」、「坂田昌一」中日、「科学者京都会

B19(BOX19)	坂田昌一氏資料 (1967-1970)	議が声明」朝日など 新聞切り抜き「歴史の忘却、英知の退廃を克服せよ」東風、「物理学会の大損失湯川秀樹」、「坂田昌一さんのこと 朝永振一郎」など
B18(BOX18)	坂田昌一氏資料 (1971-1979)	新聞切り抜き「坂田論集」読売、「坂田昌一 藤本陽一」毎日 など
REC-12	湯川秀樹、朝永振一郎 他 関係資料	坂田史料室に保存されている、目録に登録されていない、湯川、朝永関係資料、論文、雑誌、新聞記事など
A-9-2-4	湯川・朝永関係論文 1	Nishina Kinen Zaidan '66、湯川、朝永論文別刷、素粒子論序説 イワネンコ 対訳など
A-9-2-5	湯川・朝永関係論文 2	朝永の手紙コピー、朝永 中間子討論会原稿、湯川論文原稿コピー、湯川、朝永の論文別刷りなど
EKEN-02	E 研究室関係資料	
C-16-6-3	E 研のファイル	「小此木 Q 一郎氏の話」(小此木久一郎他による E 研の歴史を語る会の記録)、E 研研究室員年表 (1942-1954) E 研研究室員年表 (1955-1957) 等
C-16-6-4	E 研関係資料	教室憲章、居室表 (1968)、D 論審査報告、北大学生からの感想文、誓いのことば (益川結婚式にて)
A-7-2-3	E 研関係者の論文等	E 研学生卒業論文、田中正論文原稿、中川昌美論文原稿など
E-22-2	E 研忘年会寄せ書き	1955 年、1968 年
SMAL-06	坂田昌一氏葬儀関係	
A-10-4-1	坂田氏葬儀記録 1	
A-10-4-2	坂田氏葬儀関係 2	弔電、名簿など
A-10-4-3	坂田氏葬儀関係 3	坂田昌一死去の新聞切り抜きなど

SMAL-08	坂田記念史料室所蔵物品	坂田教授室内にあった物品、旧坂田史料室で展示していた物
H-01	坂田教授 机	
H-06	額 原子核研究所より寄贈	日本で最初に作られた人工中間子
H-12	旧坂田史料室 展示棚	恩賜賞メダル、勲二等瑞宝章、2 中間子論 25 年記念祝賀会、バートランド・ラッセルからの手紙 等

⑤史料例

資料番号	項目名	備考
(33 01 NB 01)	坂田卒業論文「原子核ノ理論ニ就テ」1933 年 3 月（原本所蔵）	



蔵書 113 物理学と方法 論集 1 (1972) 坂田昌一著作集 岩波書店
論集 1 に収録された資料

I 物理学と方法

(47 02 ZC 04)	1. 理論物理学と自然弁証法（潮流 1947 年 10 月号）	B17-031
(46 02 ZC 04)	2. 原子物理学の発展とその方法（自然科学 1947 年 2 月号）	B17-037
(59 02 ZC 06)	3. 量子力学の解釈をめぐって（科学 1959 年 12 月号）	B26-066 A-7-4-2-23
(61 02 RE 01)	4. 新粒子観対話（日本物理学会誌 1961 年 4 月別冊）	B26-078
	中国語訳 (65 02 RE 04), G13-34, 紅旗 1965 年 6 月	G13-35

II 中間子理論の展開

(46 02 OR 01)	5. 湯川理論発展の背景（自然 1946 年 8 月号）	
B22-042	6. 中間子理論研究の回顧（真理の場に立ちて 毎日新聞社 1951 年刊）	
B22-002	7. 原子核物理学の形成過程（物理学の方向 三一書房 1949 年）	G13-01
	8. 付録	

- (39 02 RE 01) 8-1. 素粒子の相互作用の理論 (日本数学物理学会誌 1939 年 13) B17-6-3
別刷: A-7-3-1-09-09, A-7-3-3-02-1
- (42 01 WP 01) 8-2. 中間子と湯川粒子の関係について (原稿所蔵) B17-009
坂田昌一、井上健 2 中間子論の論文
(日本数学物理学会誌 1942 年 16) 別刷: A-7-4-2-05, A-7-3-1-09-10

Ⅲ 素粒子論の方向

- (46 01 NB 04) 9. 素粒子論の方法 (原稿ノート所蔵) B17-021
- (47 02 ZC 05) 10. 素粒子論の現段階 (“素粒子論” 科学年鑑 1947 年) B17-032
- (48 02 ZC 03) 11. 素粒子の進歩 (“素粒子の進歩” 朝日年鑑 1949 年) B22-018
- (49 01 WP 03) 12. 素粒子の構造 (原稿所蔵) (基礎科学第 3 巻 1949 年) B22-027
- B22-047 13. 素粒子論の新展開 (読売新聞 1950 年 2 月 25 日) (50 02 ZC 04)
- B22-040 14. 素粒子論の方向 (物理学と方法 岩波書店 1951 年刊)
- (53 01 WP 01) 15. 相互作用の構造 (原稿ノート所蔵) B24-013
A-7-3-3-03-23
- (55 02 ZC 05) 16. マヨラナ・ニュートリノにまつわる迷信 (素研第 7 巻 9 号) B24-057

Ⅳ 素粒子の新概念をめざして

17. 「場の理論」の研究会から
- (55 01 WP 03) 17-1. 秋の研究計画の提案 (原稿ノート所蔵) 1955 年 B24-51, A-7-3-3-05
- (56 02 ZC 05) 17-2. 素粒子論の新しい展望 (素研 12 巻 3 号 1956 年) B24-087
- B24-070 18. 新粒子の複合模型について (日本語訳)
(坂田の手書き英文原稿の一部を所蔵) (56 01 WP 02)
原論文別刷 (56 02 RE 05), B24-95, A-7-3-2-2-01
- (61 01 WP 01) 19. 素粒子の新概念をめざして (英語論文原稿所蔵)
原論文別刷 B26-093, A-7-3-2-2-07
20. 「素粒子の模型と構造」研究会から
- (63 02 ZC 02) 20-1. 結びに代えて (素研 28 巻 2 号 1963 年), B25-026
- (65 02 ZC 07) 20-2. やまとたにはてしもなく (素研 31 巻 4 号 1965 年) B25-057
- (67 02 ZC 01) 20-3. 断章 (素研 35 巻 6 号 1967 年) B25-051
- B25-069-01 21. 新原子論の思想 (日本読書新聞 1966 年 7 月 18 日) (66 02 ZC 03)
- B25-052 22. 素粒子の新概念と複合模型の方法について (日本語訳原稿のコピー)
(手書き英文原稿所蔵) (65 01 WP 08)
原論文別刷 (65 02 RE 02), B25-10, A-7-3-2-2-03

- (65 01 ZC 01) 23. 素粒子論と哲学 (原稿所蔵)
(科学 1965 年 4 月) (65 02 RE 03), B25-034, A-7-3-2-1-07

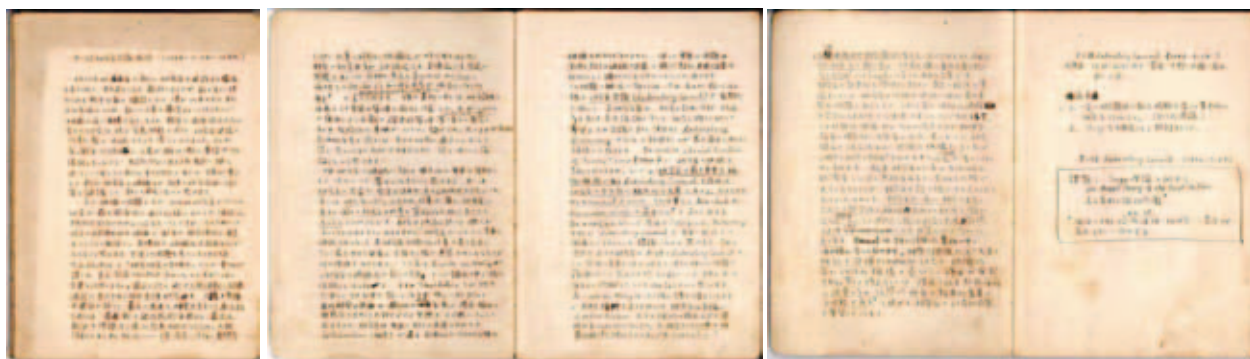
付 歩みの中から

- (33 01 NB 01) 24. 原子核ノ理論ニ就テ (手書き卒業論文所蔵)
25. 書簡抄
- (37 04 WP 01) 一 坂田から武谷への書簡 1937 年 7 月 30 日 (書簡所蔵)
(41 04 WP 02) 二 坂田から武谷への書簡 1941 年 4 月 30 日 (書簡所蔵)
(48 04 WP 02) 三 坂田から武谷への書簡 1948 年 8 月 12 日 (書簡所蔵)
- B17-029-002 26. 科学と哲学 (“科学者から” 夕刊新大阪 1947 年 3 月 19-20 日)
B22-050 27. わが師を語る (“自然の内奥へ” 夕刊新東海 1950 年 5 月 11 日)
(50 02 ZC 08)
- B22-073 28. 現代科学の課題 (“序文” 物理学と方法 岩波 11951 年刊)
B22-087 29. 狭まる自由の広場 (社会タイムス 1952 年 9 月 10 日) (52 02 ZC 02)
B24-035 30. ただ一度の幸 (朝日新聞 1954 年 1 月 6 日) (54 02 ZC 01)
B26-018 31. 京都から名古屋に移って (“無題” ちくさ 1958 年 6 月)
- (66 02 RE 02) 32. 中国の素粒子観と素粒子論 (世界 1966 年 11 月) G13-38, A-4-4-5-025
(67 02 ZC 05) 33. 闘う精神について (創美 12 回 1967 年 1 月刊) G13-42, B18-004
(68 01 ZC 01) 34. わが道 (原稿所蔵)
- (69 02 RE・TA 01) 35. 私の古典 エンゲルスの自然弁証法 (NHK 音声 CD 保存, 原稿所蔵)
(NHK FM 1969 年 7 月 30 日)
(科学 1971 年 3 月号) G13-52

蔵書 114 科学者と社会 論集 2 (1972) 坂田昌一著作集 岩波書店
論集 2 に収録された資料

I 科学の再建と研究の民主化

- (46 01 NB 01) 1. 研究室会議の提唱 第 1 回研究室会議挨拶 (原稿ノート所蔵)



- (46 01 NB 03) 2. 科学の再建 (原稿ノート所蔵)

- (46 01 NB 13) 3. 研究の民主化（原稿ノート所蔵）
 B17-040 4. 研究と組織（自然 1947 年 9 月）
 774, 775 5. 「物理学と方法」刊行にあたって（史料室蔵書 白東書房）

Ⅱ 学問と思想の自由のために 学術会議とともに（一）

- B22-023 6. 日本学術会議第一回総会に出席して（東大新聞 1949）（コピーのみ）
 B22-065-01 7. 学術会議から（“研究の自由を得ん” 石川新聞 1950 年 1 月 1 日）
 B22-044 8. 科学者と平和（中部日本新聞 1950 年 5 月 22 日）（コピーのみ）
 477, G13-02 9. 学問と思想の自由のために（1950 年刊 北隆館）
 B22-078 10. 学術会議の反省（中部日本新聞 1951 年 11 月 5 日）（51 02 ZC 03）

Ⅲ 新しい時代の科学

- B22-071 11. 近代科学を正視せよ（読売新聞 1950 年 3 月 19 日）
 (54 02 ZC 02) 12. 科学者の苦悩（教養の書 35 1954 年刊）B24-034
 B26-010 13. 一つの観点（育英通信 1957 年 10 月）（57 02 OR 04）
 A-3-2-7 14. 流動研究員制度について（長期研究計画調査委員会資料 1956 年）
 コピー（56 02 ZC 09）, B24-088
 蔵書 467 15. 議論の前提となるべきこと（素粒子論グループ風雲の書 1956 年）
 蔵書 468 16. 「三反運動」の提唱（各地から寄せられた意見 1956 年 12 月 25 日）
 素粒子論グループ事務局）（56 02 ZC 11）
 G13-22 17. 日本物理学会の脱皮をのぞむ（日本物理学会誌 1960 年 6 月）
 コピー（60 02 ZC 08）, B26-047

Ⅳ 原子力と取り組む 学術会議とともに（二）

- (52 01 ZC 01) 18. 日本にも原子炉を（原稿所蔵）（中日新聞 1952 年 5 月 12 日）B22-085
 (52 01 WP 03) 19. 原子力と取り組む－第 13 回総会から－（原稿所蔵）
 （自然 1953 年 1 月）G13-06
 G13-08 20. 広い観点に立って（日本の原子力問題 1953 年刊 理論社）
 コピー（53 02 ZC 06）, B24-015
 蔵書 752 21. 三原則と濃縮ウランウム（自然 1955 年 7 月）
 B24-068 22. 科学亡国論（朝日新聞 1956 年 1 月 19 日）（56 02 ZC 02）
 B26-024 23. 科学技術会議の設置と原子力の安全性をめぐって
 （思想 1958 年 7 月）（58 02 ZC 05）
 (59 01 ZC 01) 24. 原子炉安全調査委員会を何故やめたか

－コールドーホール改良原子炉の安全性をめぐって－（原稿所蔵）

（中央公論 1960 年 1 月）（60 02 ZC 03）

(60 01 ZC 02) 25. 原子炉の安全調査機構はこれでよいのか（原稿所蔵）

（日本学術会議ニュース 1960 年 2 月）（60 02 RE 01）

V 原子科学者の課題

B26-014 26. 科学の社会的役割（学生と科学 1957 年刊 河出書房）（57 02 BK 01）

蔵書 663 27. 科学者（現代思想 1957 年 岩波書店）B26-003

(52 02 ZC 04) 28. 平和憲法の擁護を（世界 1952 年 10 月号）

(54 01 ZC 01) 29. 私の憲法観（世界 1954 年 4 月掲載予定稿：未掲載）

B24-049, 065 30. 科学者の社会的自覚（（新聞名不詳）新聞掲載 1955 年 1 月 18 日、河北新報 1 月 26 日）

(56 02 ZC 04) 31. 原子力と人類の将来（世界 1956 年 4 月号）

(56 01 ZC 01) 32. 原子力について訴え ストックホルムにて（原稿コピー）
（世界平和評議会特別総会報告草案 1956 年 4 月）

G13-16 33. 原子科学者とウィーン宣言（科学朝日 1956 年 1 月）（59 02 ZC 01）
（小冊子 ニュース No.1 1956 年 3 月 15 日） B26-56

蔵書 489 34. 放射能の下で科学者は何をすべきか（平和の思想 1968 年刊筑摩書房）
（科学朝日 1961 年 11 月号）D-21-5-5

(65 02 ZC 08) 35. いま何をなすべきか（世界 1965 年臨時増刊号）
アンケート回答 B25-054

(65 04 ** 01) 36. 第 14 回パグウォッシュ会議への電報（電報原稿所蔵）

B25-016 の裏面 37. 「歴史の忘却」「英知の退廃」を克服せよ（東風新聞 1967 年 7 月 3 日）

(66 02 RE 01) 38. 平和の論理の創造と科学者の責任（世界 1966 年 9 月号）

VI 基礎科学の振興と将来計画 学術会議と共に（三）

B26-083 39. 科学技術基本法より科学研究基本法を（小冊子 科学と平和 岩波）
（1961 年 11 月衆議院科学技術特別委員会後述）

(62 02 ZC 05) 40. 正気の科学技術政策を（思想 1962 年 11 月） B25-006

G13-30 41. 将来計画のめざすもの（日本の原子核 1963 年 10 月）（63 02 RE 02）

B19-006 42. 初心忘るべからず（日本物理学会誌 1967 年 Vol22, No.10）（67 02 RE 01）

B19-017 43. 人文・社会科学と自然科学との調和ある発展
（シンポジウム報告 1968 年 5 月 18 日 日本学術会議）（68 02 ZC 03）

VII 科学と国際協力

- B24-006 44. 国際理論物理学学会に望む (朝日新聞 1953 年 8 月 14・15 日) (53 02 ZC 08)
(53 02 ZC 10) 45. 国際理論物理学学会を終えて
(“違う欧米の行き方” 中部日本 1953 年 9 月 24 日)
(56 04 ZC 01) 46. 海外通信 (素粒子論研究 1956 年 12 巻 2 号)
A-7-2-2-27 47. 科学における国際協力 (思想 1961 年 1 月号) B26-076, (61 02 BK 01)
B25-016 48. 中国学術代表団をむかえて (朝日新聞 1963 年 12 月 10 日)
D21-3-12.001 49. 科学史をゆさぶる北京科学シンポジウム (自然 1964 年 6 月)
(64 01 WP 04) 50. 北京科学シンポジウムあいさつ (手書き原稿 所蔵)
(“北京科学シンポジウムの印象” 自然 1964 年 11・12 月) G13-31,32
(64 01 WP 03) 51. 科学に新しい風を (“北京科学シンポジウム雑記” 手書き原稿所蔵)
(思想 1964 年 12 月号) G13-32
(“科学に新しい風を” 1966 年刊 新日本新書) 蔵書 131
(素粒子論研究 別冊 1965 年 8 月) (所蔵)
(70 02 RE 01) 52. 第 14 回ソルベイ会議の思い出 (手書き原稿コピー)
(学士会報 1970 年 10 月 15 日) G13-048

VIII 学問の論理と政治の論理

- B-19-023 53. 科学の論理と政治の論理 (朝日新聞 1968 年 4 月 8 日)
(手書き原稿コピー) (69 01 ZC 01)
蔵書 426 54. 現代科学の現代性 (岩波講座哲学「自然と哲学」1968 年)
蔵書 723 55. 大学の本質・学問とは何か (第 7 回理学部将来計画シンポジウム)

以上 論集に収録された資料

上記 論集収録資料以外の 年代別資料例

- (34 02 RE 01) 「On the Photo-electric Creation of Positive and Negative Electrons」
論文別刷 Nishina, Tomonaga and Sakata,
Suppl.Sci.Pap.of the I.P.C.R. 1934, No.17, pp.1-5
理研時代の論文。御殿場合宿での研究
参照 G10-016 図書 12 1970 年「凡児さんとゴム風船」朝永振一郎
(36 01 FL 01) 「陽電子の理論からの様々な結果に就いて (総合報告)」1936 年 5 月 28 日
大阪大学のノートで、手書き原稿
(37 01 WP 01) ボーア教授講演会関係資料 1937 年 4 月

坂田のノート、講演会案内、ニールス・ボーア教授紹介

講演会の新聞記事 帝國大學新聞 4 月 19 日、26 日

東京日日新聞 5 月 1 日

(39 01 WP 06) 講義用ノート（量子力学） 139 ページ

(42 01 NB 01) 講義用ノート（数理物理学 I）

常微分方程式ノ初等的解法 複素変数関数論 I

(42 01 NB 02) 講義用ノート（数理物理学 I）

複素変数関数論（続） 直交関数 2

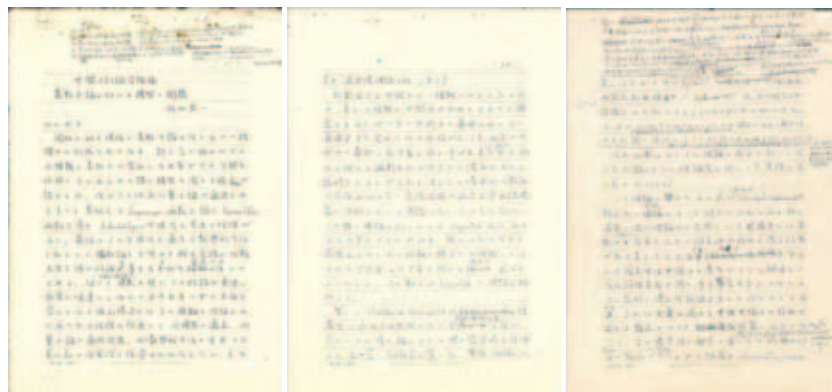
(42 01 NB 01) 講義用ノート（数理物理学 I）

常微分方程式ノ初等的解法 複素変数関数論 I

(42 01 FL 01) 講義用ノート（II 関数の級数展開） 91 ページ

(42 01 NB 03) 講義用ノート（量子力学）

(43 01 WP 03) 「素粒子論に於ける模型の問題」中間子討論会講演原稿 1943 年 10 月



(43 01 WP 05) 「素粒子論の方法」講演原稿 1943 年

(43 01 WP 07) 「反中性粒子の消去理論に就いて」未完原稿 1943 年

(43 01 WP 08) 「 β -崩壊理論」未完成原稿 1943 年

(43 01 NB 02) 講義用ノート（原子核及宇宙線論）

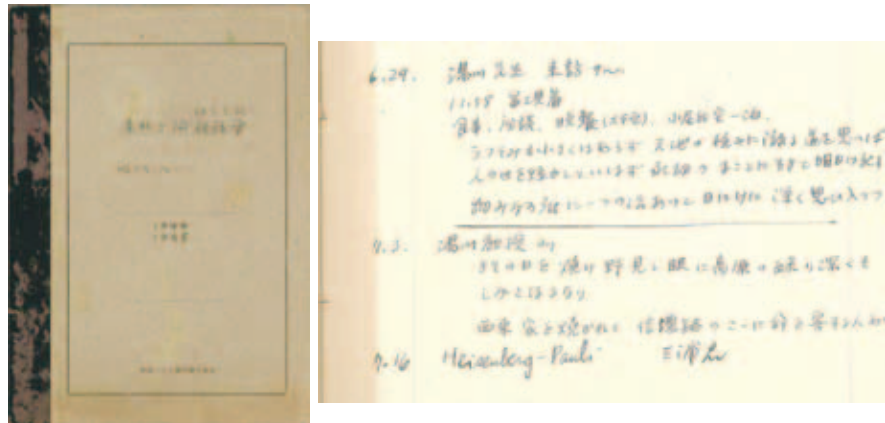
(44 01 WP 01) ウラニウム問題 第一回会合のメモ書き 1944 年 10 月 4 日

大阪水交社にて、出席者（川村海軍大佐、荒勝、湯川、木村、小林、萩原、千谷、奥田、坂田 ほか）

(44 01 NB 11) 疎開先 富士見へ湯川来訪 坂田疎開時のノート 1944 年 - 1945 年

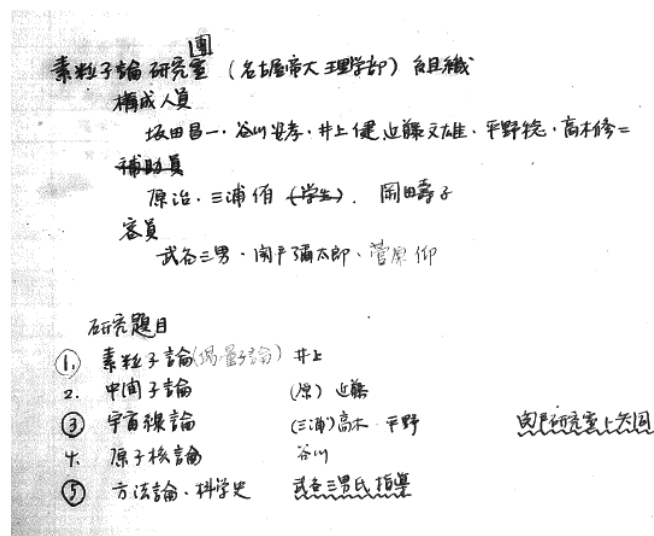
研究日誌として日付入りで記入されている。特に、湯川来訪時に贈られた和歌の書き取りがあり、湯川との関係を物語っています。

（贈られた和歌短冊のコピーは展示中）



この和歌の話は、後日、中京新聞の記事“湯川博士と和歌” 1948 年 5 月 7-8 日に出ています。参照 B22-007, (48 02 ZC 02)

- (45 01 NB 10) 「知ハ力ナリ」 富士見国民学校での講演原稿（疎開先） 1945 年 10 月
- (45 01 NB 17) 「科学者の警鐘」 新聞記事原稿 1945 年 中部日新聞 1946 年 3 月 11 日
- (45 01 NB 18) 「素粒子論研究室組織」 1945 年のノートに記載



- (46 04 WP 05) 武谷への書簡 物理学教室憲章を作成したことを伝える 1946 年
- (46 02 ZC 01) 素粒子論研究室会議議事録 坂田手書きノート 1946 年
第 1 回 1 月 24 日 参照 論集 2 No.1 (46 01 NB 01) 挨拶原稿
第 2 回 3 月 27 日、第 3 回 4 月 17 日、
第 4 回 5 月 10 日、第 5 回 5 月 28 日
- B17-024 「研究室会議の確立へ」 学生新聞切り抜き 1946 年 7 月 20 日 (46 02 ZC 03)
- (46 01 NB 05) 「研究の民主化」 1946 年 4 月 30 日
民科・物理学者懇談会 - 現下に於ける物理学者の任務 - 講演原稿
- (46 01 NB 14) 「研究組織の民主化」 名古屋大学新聞の原稿 1946 年

- (46 01 NB 17) 「バーナル 科学の社会的機能 訳者の序」原稿
- (46 01 WP 03) 「素粒子論分科会第 1 回講演会 予稿 素粒子の相互作用の関連」原稿
- (46 01 WP 04) 「電子の自己エネルギー並に中性子と陽子の質量の差異について」
論文原稿（坂田昌一、原治 科学 1947 年 2 月号）
- (47 01 WP 01) 「メソン会」未完原稿
- (47 01 WP 06) 「凝集力の場にともなう素粒子（C 中間子）の性質」論文原稿
（原、龍岡、坂田）1947 年 7 月 2 日
- (47 04 FF 01) 武谷への書簡 1947 年 8 月 3 日
イタリアの実験グループが異種の中間子を報告
2 中間子論を再検討していることを伝える
- (47 01 WP 07) 「中間子と湯川粒子の関係について」論文原稿
（坂田、井上 1947 年 9 月 23 日）
- B17-048-001 「湯川素粒子論に新展開 中間子に異質の 2 種」毎日新聞
1947 年 11 月 21 日切り抜き (47 02 ZC 08)
参照 2 中間子論 論集 1 No.8-2 (42 01 WP 01)、(47 01 WP 07)
- (48 02 ZC 01) 「素粒子論研究室速報」研究室における状況など
- (48 04 WP 02) 武谷への手紙 1948 年 8 月 12 日
湯川送別会に出席
C 中間子理論の方法論的な検討し秋の分科会での発表を提案
- (48 01 WP 02) 「素粒子論の方法」原稿（井上、坂田、武谷）1948 年
素粒子論研究 Vol.0 No.1
- B22-007 「湯川博士と和歌」中京新聞 1948 年 5 月 7、8 日 切り抜き (48 02 ZC 02)
参照 (44 01 NB 11) 疎開先へ湯川が見舞いに来訪 1945 年
- (49 04 WP 01) 湯川への手紙の下書き 1949 年
- (49 01 WP 03) 「湯川博士とノーベル賞」未完の原稿下書き
- B22-012 「湯川博士と私」朝日新聞 1949 年 11 月 5 日 (49 03 ZC 01)
湯川との関係、湯川と朝永の違い、疎開先への見舞いのことなど記載されている。
- (49 02 ZC 02) 素粒子論研究者の懇談会のお知らせ 朝永、坂田 1949 年 5 月 2 日
- (49 07 TA 01) 「朝の訪問」NHK ラジオ 1948 年 12 月 30 日放送の書き起こし
- (50 04 FF 03) 武谷への書簡 1950 年 7 月 27 日
朝永帰国の歓迎会についてと、湯川は帰国するかどうか
- (50 04 FF 05) 武谷への書簡 1950 年 12 月 15 日
日本学術会議で、坂田は当選したが、武谷は落選したこと

- (50 01 WP 01) 「混合場の方法と素粒子の構造」 講演原稿
- (50 01 WP 02) 「湯川理論の背景」原稿 1950 年
- (50 01 WP 03) 「原子物理学の発展と平和」講演原稿 1950 年
- B22-017 「学士院賞に想う 賞金でピアノを」夕刊新東海新聞切り抜き
1950 年 3 月 16 日 (50 03 ZC 02)
- B22-033 学士院恩賜賞に関する通知、招待状、式次第など
- B22-062 新聞切り抜き 学士院恩賜賞 関係記事 中京新聞、中日新聞 ほか
- (50 02 ZC 16) 「研究制度の確立」中部日本新聞 1950 年 10 月 2 日 コピー
- (51 01 WP 01) 「On the Structure of Interactions between Elementary Particle
And the Applicability of the Renormalization Theory」
(坂田、梅沢、亀淵) 論文下書きと原稿
- B22-077 「仁科先生の死を悼む 坂田昌一」名古屋タイムス 1951 年 1 月 13 日
- B22-083 「仁科博士逝く」(「おそかったか」急ぎ上京した坂田教授)
毎日新聞 1951 年 1 月 11 日 切り抜き
- (51 01 NB 01) 坂田ノート “My Trip to Copenhagen” 英文下書き 1951 年
- (51 04 FF 01) 坂田(鎌倉)から武谷への書簡 1951 年 3 月 13 日
コペンハーゲンへの渡航を計画する経緯が書かれている。
- (51 04 FF 04) 坂田(鎌倉)から武谷への書簡 1951 年 7 月 24 日
コペンハーゲンへの渡航を断念し、名古屋へ帰ることを伝える。
- A-7-3-5-11 ハイゼンベルグからの書簡 1951 年 3 月 10 日コペンハーゲン来訪のこと
- A-7-3-5-22 渡航説明書など、渡航許可申請書類
- A-7-3-5-24 E 研メンバーより鎌倉滞在の坂田昌一先生への激励文 1951 年 7 月 13 日
E 研究室の亀淵、高橋、後藤、中井、梅沢より
コペンハーゲン渡航できず待機中の坂田への激励文



当時のE研究室メンバーと坂田の関係が伝わります。

“只野グループ” という記述あり

B22-081-02 「旅券手続きの遅滞 坂田教授渡欧延期」 名古屋大学新聞 1951 年
経緯が記載されている

(52 01 ZC 01) 「日本にも原子炉を」 中日新聞記事原稿コピー

B22-085 中日新聞 1952 年 5 月 12 日

B22-086 「夫妻対談」 湯川秀樹・スミ子夫妻、坂田昌一・信子夫妻
第一放送 1952 年 9 月 2 日放送 台本

B24-009 「書斎拝見－見当らぬ装飾品」 朝日新聞切り抜き 1953 年 10 月 22 日
(53 02 ZC 12)

A-7-2-4-01-01 国際理論物理学会終了後のインフォーマルミーティング 起し原稿
Prof. Bopp のレクチャー、討論会 参加者（坂田、Bopp、Proca、Heitler、
Møller、Wigner、湯川、朝永、渡辺、Salecker、Bloch、武谷、他）
1953 年 関連資料 (53 02 R 03)、G13-51 自然 1954 年 3、4 月
(自然には、Bopp レクチャーは含まれていない。)

(54 02 RE 01) 世界平和者日本会議、名古屋会議資料 1954 年 4 月 17 日

B24-024-03 「世界平和者名古屋会議で決議文 坂田氏演説」 中日新聞切り抜き
1954 年 4 月 18 日

(54 01 WP 01) 「Some Recent Theoretical Research Work in Japan」 手書き原稿
コペンハーゲン滞在中の講演用 1954 年

(54 01 WP 02) Prof. Proca に招待された講義での話の原稿（未完原稿）

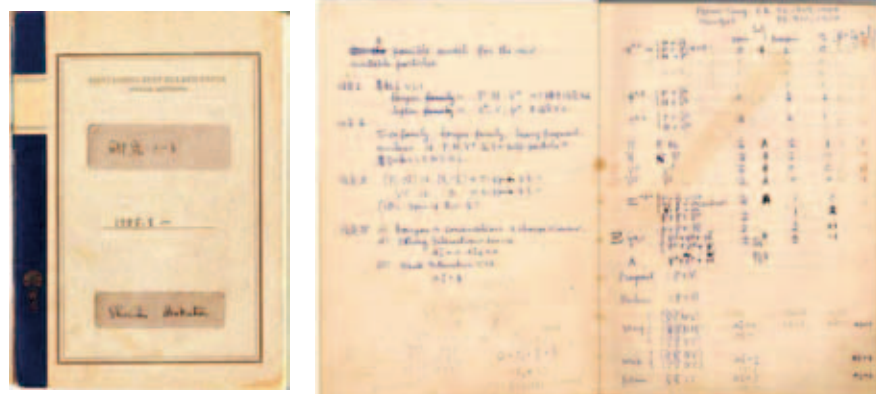
(54 01 WP 03) 「On the Structure of Interactions Containing the Neutrino」
コペンハーゲンでの講演原稿 1954 年

(54 01 NB 01) 坂田研究日誌 1954 年 コペンハーゲン滞在中のノート

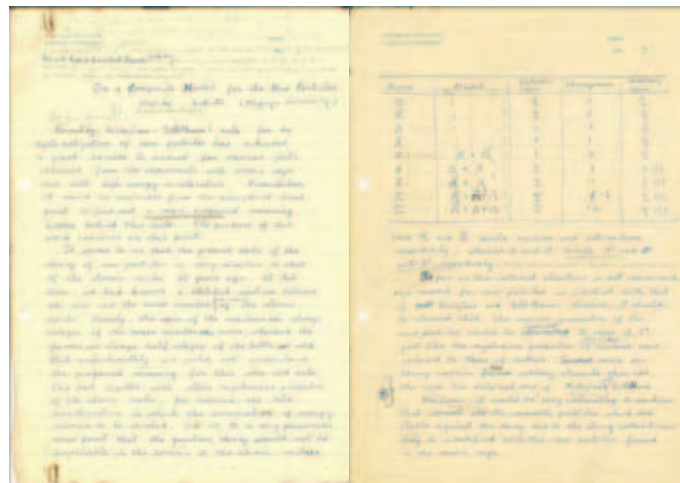
(55 01 WP 01) 原子力問題委員会報告のノート

B24-048 「アンデルセン生誕 150 年の記念行事」 朝日新聞記事 1955 年 3 月 5 日

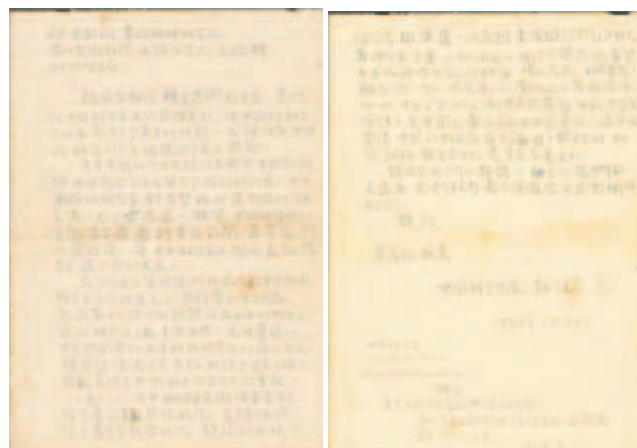
(55 01 NB 02) 坂田研究ノート 1955 年 坂田模型誕生の瞬間（計算書きが見られる）



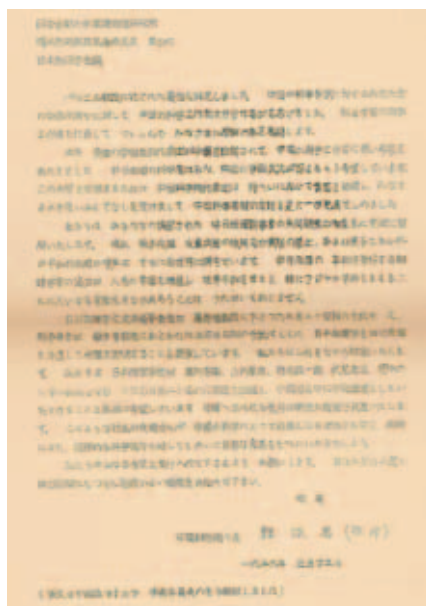
- (55 01 WP 09) 場の理論研究会（後半）スケジュールと坂田の研究会ノート
- (56 01 WP 02) 「On a Composite Model for the New Particles」論文原稿
坂田模型論文原稿



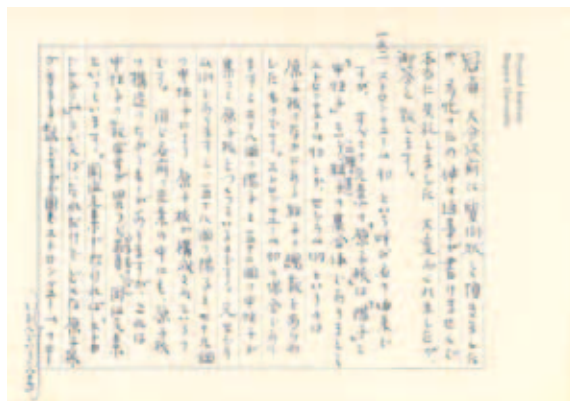
- (56 01 WP 03) 「On a Composite Model for the New Particles」北京での講演原稿 1956 年
- (56 01 FL 01) ソ連、中国歴訪時の講演原稿、メモ書き、ノート、日誌
北京での講演原稿「A remark on the composite model for new particles」
世界平和評議会出席（ストックホルム）から中国訪問までの日誌
下書き原稿「Physicists in U.S.S.R.」
メモ書き
原稿「中国の印象」
原稿「ソ連にできた宇宙線発生装置」
混じりこみ資料（1954 年イギリス滞在中の日誌メモ、1955 年コペンハーゲン滞在中の論文原稿「On the Nature of Neutrino」）
- (56 01 ME 01) 北京滞在中に郭沫若から預かった湯川、日本物理学会への手紙
1956 年（所蔵資料は、坂田による写し）



A-4-4-2-3-8 郭沫若からの手紙（56 01 ME 01）の日本語訳（準備委員会）
1956 年 5 月 25 日



- B24-101 「日本における原子力の平和利用について」
「日本の科学者の原水爆反対運動について」原稿 1956 年
- SS0018 「研究室めぐり 名大理学部坂田研究室」1957 年 5 月新聞切り抜き
- B26-012 「原子の世界を語る」志摩高校第 4 回文化祭講演要旨
志高新聞 1957 年 12 月 28 日号 新聞切り抜き（57 03 ZC 03）
- C-16-5-4-07 新聞記事「死の灰現在までの実験で十年後に致死量 坂田教授が説く」
中部日本新聞 6 月 3 日 の記事について、静岡県袋井中学一年生から質問
の手紙
- C-16-5-4-08 中学生からの質問 C-16-5-4-07 に対して坂田からの回答文原稿
中学生の質問に対しても丁寧に回答原稿の推敲がされています。



1 ページ目（3 ページの原稿）

- B26-015 「嵐の中の自己改革」(武谷三男・星野芳郎著「原子力と科学者」書評)
日本読書新聞記事 1958 年 3 月 17 日 (58 02 ZC 02)
- (58 01 WP 02) 「Remarks on the Promotion of International Cooperation」
「一般的見解」日本語原稿 パグウォッシュ会議関係
- B26-020 原子力世界大会へ坂田出席の新聞記事 毎日新聞記事
1958 年 9 月 14 日
- B26-019-01 「科学者の友情実る 理論物理学の大御所タム博士」毎日新聞
1958 年 10 月 30 日
- B26-019-02 「気軽なおじさん ノーベル物理学賞のタム博士」毎日新聞
1958 年 10 月 30 日
- B26-019-03 「ジュリオ・キュリーの死」週刊読書人 1958 年 8 月 25 日号
- (59 07 TA 01) 「兄弟対談 明るい茶の間」NHK ラジオ 1959 年 8 月 12 日放送 CD
- B26-052 「坂田委員が辞意」朝日新聞 1959 年 11 月 11 日 切り抜き
英改良炉が安全との答申に責任が持てぬとして原子炉安全審査専門部会委員の辞意を表明
- B26-051-02 「安全に責任負えぬ 坂田教授が声明」中日新聞 1959 年 11 月 11 日記事
坂田声明文要約
- B26-050 「英改良炉は果たして安全か 坂田声明をめぐって」中部日本新聞記事
1959 年 11 月 12 日 唯一のレジスタンス坂田昌一教授
- B26-049-01 「坂田問題で会合」朝日新聞 1959 年 11 月 17 日 切り抜き
(関連「コールダーホール改良炉の安全性に関する問題」陳述原稿
(59 01 ZC 01) 論集 2、No.24 に収録)
- (59 01 ZC 01) 原子炉安全審査専門部会長 八木栄への意見書
(英改良炉坂田声明) 1959 年 11 月 7 日
- (60 01 WP 01) 「声明書」原稿 日米安保による議会崩壊に対して 1960 年 5 月 26 日
- (60 01 WP 02) 「声明」原稿 湯川秀樹の名前で坂田が書いたもの
日米安保条約批准で議会崩壊により、国会解散を求める
- (60 01 FL 02) 物理教室講演会 草稿 1956 年 12 月 11 日など
- (60 01 WP 05) 「An attempt to the unified model of elementary particles」Abstract 草稿
(後に「A Unified Model of Elementary Particles」Maki, Nakagawa, Ohnuki and Sakata Prog. Theor. Phys. 23 1960 名古屋模型の論文)

坂田模型、名古屋模型に関する新聞報道の切り抜き

- SS0024 「素粒子の複合模型について」中日新聞 1959 年 5 月 18 日

- B26-030 「新粒子の存在を予言」毎日新聞 1959 年 11 月 14 日
- B26-031 「坂田モデル 三粒子の組合せから 物質のナゾ解明に巨歩」
毎日新聞 1959 年 11 月 25 日
- B26-032 「世界の科学者が注目 新しい素粒子の統一理論」
北海道新聞 1959 年 7 月 19 日
- B26-033 「素粒子の成り立ちを解明」朝日新聞 1959 年 12 月 19 日
「名古屋モデルを発表」日本経済新聞 1959 年 12 月 19 日
- SS0035 「名古屋モデルと命名」中日新聞 1959 年 12 月 19 日
「坂田理論さらに進展」朝日新聞 1959 年 12 月 19 日
「素粒子の統一理論 名古屋モデル発表」毎日新聞 1959 年 12 月 19 日
- A-9-3-2-1 「名古屋モデルと研究体制」毎日新聞 1959 年 12 月 30 日
- B26-057 「話題の名古屋モデルとは…」朝日新聞 1960 年 2 月 1 日
- B26-085 「正しい坂田モデル」朝日新聞 1961 年 3 月 22 日
- B26-086 「坂田モデルをめぐって上」朝日新聞 1961 年 3 月 29 日
- B26-087 「坂田モデルをめぐって下」朝日新聞 1961 年 3 月 30 日
- SS0036 「坂田モデル実証 素粒子研究会で報告」朝日新聞 1961 年 3 月 22 日
- (60 01 ZC 01) 「原子力問題委員会報告」委員長報告原稿下書き
- (61 02 ZC 05-1) 湯川・朝永・坂田による核実験停止および軍縮への物理学者としての声明
1961 年 9 月 3 日



(62 02 ZC 11) 湯川・朝永・坂田による日本版パグウォッシュ会議開催のよびかけ
1962 年 4 月 18 日



(62 01 WP 03) 「科学者京都会議がひらかれるまで」手書き原稿所蔵 赤字で校正あり
(世界 1962 年 8 月号掲載)



- B25-012 第 1 回科学者京都会議 声明 1962 年 5 月 9 日
A-4-1-5-3-1 「STATEMENT」第 1 回科学者京都会議 声明の英訳
(62 07 TA 01) 「現代の顔 科学者京都会議」TBS テレビインタビュー未放送
1962 年 5 月 15 日放送予定の原稿のみ
(62 07 TA 02) 「朝の訪問」NHK ラジオ 1962 年 9 月 14 日放送 CD
(62 02 RE 01) 「Remarks on the Unified Model of Elementary Particles」

Maki, Nakagawa and Sakata, Prog. Theor. Phys. 28 (1962) 870

新名古屋模型の論文（ニュートリノ混合を提唱）

別刷：A-7-3-2-2-05, A-7-3-1-09-18 など

(63 01 WP 01) 第2回科学者京都会議でのノート 1963年5月7-9日 竹原

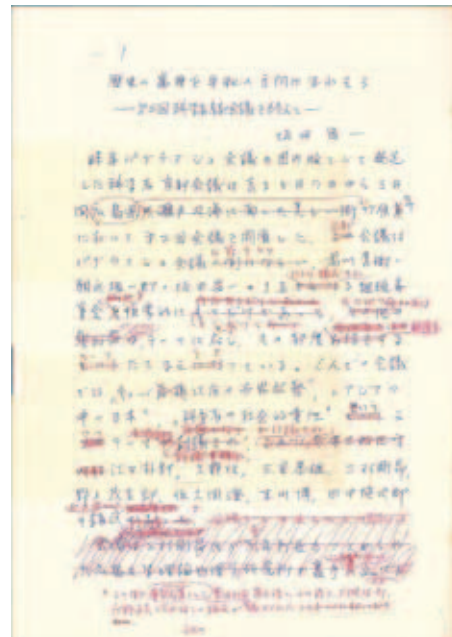
(63 01 WP 02) 「歴史の歯車を平和の方向にまわそう 第2回科学者京都会議を終えて」

未完原稿所蔵

完成版は科学朝日

1963年6月に掲載

(史料室所蔵 D-21-5-6)



B25-012 第2回科学者京都会議 声明 1963年5月9日

A-4-1-2-02 「STATEMENT」第2回科学者京都会議 声明 英訳

(64 02 ZC 02) 「長編小説論－兼せ聴けば明るく、偏り信ずれば暗し」

素粒子の模型と構造研究会にて 1964年2月3-4日

素粒子論研究 29巻1号掲載

B25-031-01 「坂田教授を団長に」中日新聞 1964年6月29日

参照 (64 01 WP 03) “科学に新しい風を” 論集2、No.49

(64 01 WP 04) “北京科学シンポ 団長挨拶” 論集2、No.50

(65 01 WP 06) 「原子力特別委員会委員長報告」1965年12月 原稿

(65 01 WP 07) 講演原稿の一部 1965年3月22-24

(65 01 WP 08) 「Remarks on a New Concept of Elementary Particles and Method of Composite Model」論文原稿

(Maki, Ohnuki and Sakata Suppl.Prog.Theor.Phys.

Extra Number (1965) 406)

B25-044

朝永ノーベル賞受賞のお祝い原稿下書き（未完）1965 年



B25-045

理学部長に選ばれた坂田昌一教授 中日新聞 1965 年 12 月 17 日

(66 02 ZC 02)

「ウィーン宣言のこと」ニュースレター（ラッセル平和財団）

1966 年 4 月 15 日 G13-39

B25-063

「核兵器全廃を科学者京都会議が声明」朝日新聞切り抜き 1966 年 7 月

「核兵器開発を憂う－科学者京都会議が声明－」新聞切り抜き 1966 年 7 月
第 3 回科学者京都会議の記事

(66 02 RE 03)

「現代物理学における自然観」名古屋大学農学部科学史及科学論研究会
1966 年 12 月 17 日 講演

(66 01 WP 02)

史料ファイル

原水爆科学者会議（第 0 次案）

第 3 回科学者京都会議プログラム

第 3 回科学者京都会議でのノート

「科学者の社会的責任」レジメ 鉛筆書き

「平和の論理の創造と科学者の責任 第 3 回科学者京都会議から」原稿
坂田の講演内容と討論を書き起こした原稿

B25-064

「仏教と物理学の接点－けし粒の中に全宇宙が－」同朋新聞切り抜き
1966 年 9 月 10 日

(67 01 WP 02)

「On the Composite Model Approach to the Theory of Elementary Particles
Historical Review and the Underlying Philosophy of Japanese Works」
1967 年 MAX Planck Inst. での講演原稿

(67 02 ZC 07)

「私の自然観」甲南大学学生部「学生だより」1968 年 1 月 19 日刊

B19-002

「対談 この人と 坂田昌一氏」中日新聞 1967 年 7 月 17 日

(68 02 ZC 02)

「1968 年北京シンポジウム日本準備会結成総会によせたメッセージ」
1968 年 3 月 19 日

- (68 01 ZC 05) 科学者京都会議勉強会での坂田ノート 1968 年 6 月 6-8 日 東京
 B19-040-02 「坂田理学部長が辞任」中日新聞 1969 年 6 月 2 日 切り抜き
 B19-056 「E 研における研究の展開」原稿 1970 年 5 月 27 日



- B19-041 「弔辞」原治 原稿 1970 年 10 月 18 日
 B19-047 「坂田昌一先生告別式」素粒子論研究編集部 原稿 1970 年 10 月 18 日
 B19-048 「図年表 坂田博士と日本学術会議」
 A-10-4-3-001-01 「ベッドでも専門書」1970 年 新聞切り抜き
 A-10-4-3-001-02 「百歳にも匹敵する生き方 坂田昌一氏」朝日新聞 1970 年 10 月 28 日
 A-10-4-3-001-05 「素粒子論に新分野 坂田昌一さんのこと」朝永振一郎
 1970 年 10 月 20 日新聞切り抜き
 A-10-4-3-001-06 「平和への科学追求」湯川秀樹のコメント「物理学会の大損失」含む
 1970 年 新聞切り抜き
 A-10-4-3-001-07 「常にノーベル賞の候補」1970 年 新聞切り抜き
 A-10-4-3-001-08 「若草山で生まれた 2 中間子論」湯川のコメント 1970 年 新聞切り抜き
 D-21-4-9 坂田昌一告別式 (写真アルバム) 1970 年 10 月 18 日、
 坂田先生を偲ぶ会 (写真アルバム) 1970 年 10 月 27 日
 D-21-4-7 故坂田昌一教授理学部葬 (写真アルバム) 1970 年 10 月 27 日

- B19-058 「坂田昌一教授のおもいで」原稿 日本物理学会誌 1971 年 3 月号
日本物理学会誌 a-236, G10-22, A-9-4-9-4
- B18-022-001 「思想と実践浮彫り－世界的物理学者の業績－」毎日新聞 1973 年 2 月 26 日
論集 1、2、原子物理学入門 の出版について
- B18-026 「現代を動かす人と思 坂田昌一 階層がある自然」藤本陽一
毎日新聞 1974 年 5 月 20 日
- B18-027 「新粒子発見の背景」牧二郎
朝日新聞 1975 年 4 月 10 日
- B18-028 「坂田昌一博士の墓碑 柳井へ」周南新報 1975 年 1 月 30 日
- B18-037 「故坂田博士 13 回忌法要」読売新聞 1982 年 10 月 11 日
- A-9-3-3 坂田像完成祝賀（写真アルバム）1984 年 11 月 1 日

(77 02 BK 01) 「SHOICHI SAKATA SCIENTIFIC WORKS」1977

映像資料（現在 DVD にて保存）

- (50 07 TA 01) 「ニュースに見る昔の日本 恩賜賞の坂田理論」1950 年 日本映画社
- (60 07 TA 01) 「NHK テレビニュースインタビュー フランス核実験に対するコメント」
1960 年 NHK
- (64 07 TA 01) 「16 ミリフィルム (The 1964 Peking Scientific Symposium)」1964 年
- (86 07 TA 01) 「坂田昌一「人と業績」」1986 年 坂田記念史料室
坂田史料室についての会議の様子
- (03 07 TA 01) 「偉人達の夢 # 69 坂田昌一」2003 年 文部科学省

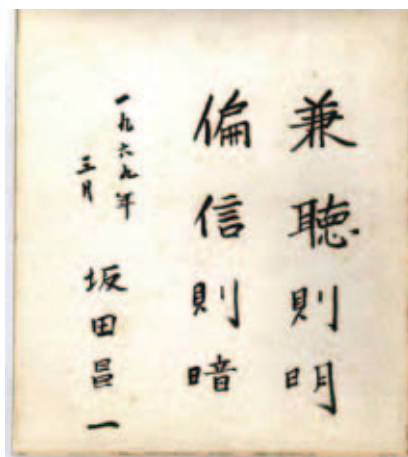
音声資料（現在 CD にて保存）

- (59 07 TA 01) 「明るい茶の間「兄弟対談」坂田昌一・静間良次」(10 分)
1959 年 8 月 12 日 NHK ラジオ（名古屋）
- (62 07 TA 02) 「朝の訪問」勝沼精蔵 坂田昌一 1962 年
NHK ラジオ（名古屋）
- (64 07 TA 01) 「現代の科学技術の人類史的意義」講演 於信州大学 1-4 1964 年
- (64 07 TA 02) 「信州大学生自治会主催 座談会」1964 年
- (68 07 TA 01) 「科学と現代」第 14 回富山大学祭講演 A 面 B 面 1968 年 6 月 1 日
- (68 07 TA 02) 「第 14 回富山大学祭 座談会」1964 年
- B-1-5-3-12 「科学の現代的性格（1－6）」
- B-1-5-3-14 「第 2 回科学者京都会議 於竹原 (1)(2)」1963 年 5 月

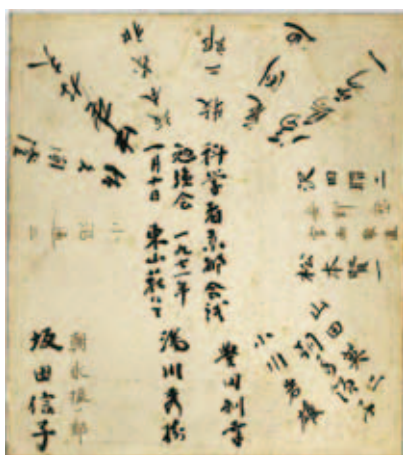
- (69 02 TA 01) 「私の古典—エンゲルスの自然弁証法」NHKFM 1969 年 7 月 30 日放送
- B-1-5-3-16 「坂田先生告別式（密葬）」1970 年 10 月 18 日
- B-1-5-3-19 「坂田先生理学部葬 1, 2, 3」1970 年 10 月 27 日
- B-1-5-3-20 「坂田昌一さんのおもいで」1970 年 10 月 22 日
- B-1-5-3-21 「故 坂田昌一教授追悼講演会」1970 年 12 月 21 日
- B-1-5-3-22 「坂田昌一について 有山兼孝の思い出」1970 年 12 月 21 日
- B-1-5-3-23 「坂田昌一 61 才祝賀会」
- B-1-5-3-24 「E 研の歴史シリーズ 牧氏のお話」1971 年 7 月 23 日
- B-1-5-3-26 「坂田昌一 人と業績」1986 年 4 月 15 日
- B-1-5-3-27 「高林：坂田を語る」1997 年 30 日
- B-1-5-3-28 「原治氏 語る」

色紙・物品類 資料

- E-22-2-1 色紙額「兼聴則明 偏信則暗」1969 年 3 月 坂田昌一



- E-22-2-4 額装色紙「科学者京都会議勉強会寄せ書き」
1971 年 1 月 10 日 御殿場 YMCA 東山荘にて（レプリカを展示中）



- E-22-2-6 勲記：「勲二等に叙し瑞寶章を授与する」昭和 45 年 10 月 16 日
E-22-2-8 E 研忘年会寄せ書き 1955 年
E-22-2-9 E 研忘年会寄せ書き 1968 年 12 月 26 日
祈坂田先生 早期御快癒

写真資料

- E-22-1-2 : ALBUM (坂田、湯川、早川、朝永 写真)
E-22-1-2-27 京都大学基礎物理学研究所にて
E-22-1-2-28



- E-22-1-2-80 東京文理科大学（東京教育大学）大久保分室にて（前列左より坂田、朝永、武谷。後列左より馬場、皆川、木下、早川、木庭、宮島）



- E-22-1-4 : 1964 年北京科学シンポジウム写真集
E-22-1-4-10 1964 年北京科学シンポジウムにて坂田の講演



- E-22-1-5 : 坂田のお墓参り写真
E-22-1-6 : 坂田昌一関係写真集
E-22-1-6-01 坂田昌一 机にて



- E-22-1-6-02 坂田昌一 半袖シャツにて
E-22-1-6-03 坂田と武谷（風貌（続） 土門拳 講談社 掲載写真）



1949年6月撮影

- E-22-1-6-09 温泉にて 毎日新聞記者と（坂田、湯川、小林、記者）
E-22-1-6-10 たばこを吹かす坂田 コペンハーゲンで 信子夫人撮影
E-22-1-6-16 会議中（大貫、坂田）
E-22-1-6-18 （湯川、朝永、小林、坂田）写真



- E-22-1-6-20 机にて論文を読む坂田
E-22-1-6-22 温泉地の河辺にて（湯川、坂田）
E-22-1-6-23 モーツアルトの生家にて（坂田）1967年
E-22-1-6-30 E研遠足にて（坂田、松本、中川、梅村、清水）

E-22-1-6-33 浴衣姿の写真（小林、坂田、有山、武谷、井上、中央に湯川）

E-22-1-6-40 1946 年 9 月 名古屋大学物理教室 教授集合写真
（宮原、坂田、有山、宮部、上田、関戸）



E-22-1-6-54 坂田昌一 朝日賞受賞 1949 年 1 月 16 日



E-22-1-6-66 国際理論物理学会 1953 年 9 月 名古屋駅にて出迎え



E-22-1-6-66-2 国際理論物理学会 1953 年 9 月 名古屋駅にて出迎え



E-22-1-6-41

第 14 回ソルベイ会議 1967 年 10 月 2-7 日



E-22-1-6-38

E 研究室の様子 (毎日新聞 1959 年 12 月 30 日掲載写真 参照 A-9-3-2-1)



C-16-6-1-1

E 研写真 (田中、亀淵、岩田、湯川二、河辺、高橋、坂田、梅沢)

C-16-6-1-2

E 研写真 1953 年 9 月理論物理学国際会議

H. ザレッカーを囲んで (原、岡野、大貫、岩田、小此木、Salecker、坂田、湯川二、亀淵、梅沢、小森、高林、小川)

C-16-6-1-3

E 研写真 1953 年 9 月理論物理学国際会議

H. ザレッカーを囲んで (小川、亀淵、岡野、岩田、小森、?、Salecker、高林、吉村、?、原、小此木、坂田、?、湯川、大貫、松本?、高尾、山田)

C-16-6-1-4

E 研写真 1953 年ごろ (岩尾、岡野、小此木、広川、吉村、小川、亀淵、高林、松本、大貫、山田、坂田、原)

C-16-6-1-5

基礎物理学研究所にて (左から、藤村淳、坂田昌一、小此木久一郎)

C-16-6-1-7

写真 坂田昌一 1953 年 (旧理学部 2 号館南口にて)

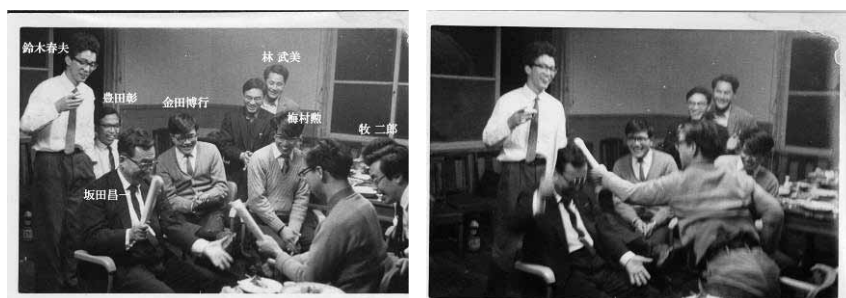
C-16-6-1-9

物理学教室写真 1953 年 11 月 13 日 (榊原温泉にて)

C-16-6-1-11

物理学教室写真 1953 年 11 月 14 日 (佐田駅ホームにて)

- C-16-6-1-12 写真 坂田昌一、武谷三男 1951 年（風貌（続）に掲載）（展示パネル）
- C-16-6-1-15 写真 1957 年名駅にて（高林、ローゼンフェルト、有山、ローゼンフェルト夫人、坂田、小此木）
- C-16-6-1-16 写真 1958 年第 3 回パグウォッシュ会議（朝永、ポーリング）（ウイグナー、湯川など）
- C-16-6-1-17 写真 1958 年第 3 回パグウォッシュ会議集合写真
- C-16-6-1-20 連続写真 5 枚 1960 年ごろ E 研にて坂田とゲームを楽しむ（鷺見、鈴木、豊田、坂田、金田、林、梅村、小此木、牧）（展示パネル）



- C-16-6-1-21 写真 1960 年マルコフを囲んで（高林、マルコフ、坂田、中川、小此木、早川、大貫、牧、大槻）（展示パネル）



- C-16-6-1-23 写真 1964 年 8 月北京シンポジウムにて 毛沢東と坂田の握手（毛沢東、周培源、坂田昌一）（展示パネル）



C-16-6-1-24

写真 1965 年 9 月 24-30 日 素粒子国際会議集合写真



C-16-6-1-25

写真 1965 年 素粒子国際会議園遊会にて（南部、坂田）



C-16-6-1-26

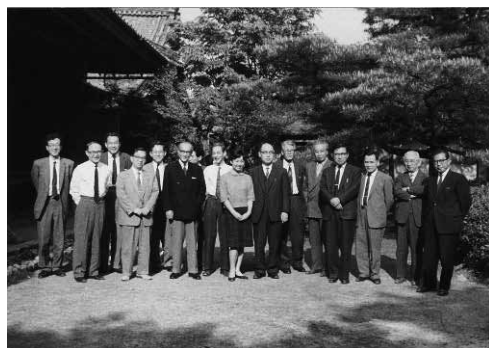
写真 1965 年 中間子論 30 周年園遊会集合写真（湯川を囲んで）

C-16-6-1-31

写真 1950 年 毎日新聞社撮影（小林稔、坂田昌一、湯川秀樹）

C-16-6-1-32

写真 1962 年 5 月 第 1 回科学者京都会議集合写真（展示中）



C-16-6-1-36

写真 たばこをもつ坂田昌一

C-16-6-1-39 写真ファイル 1956 年 坂田ソ連訪問 16 枚



C-16-6-4-14 写真 たばこを持って語る坂田昌一 中日新聞 1967 年 7 月掲載
(展示パネル)



C-16-6-5-1 E研集合写真 1968 年 (展示パネル)



C-16-6-5-4 写真 E研にて (坂田、小此木、益川など) (展示パネル)

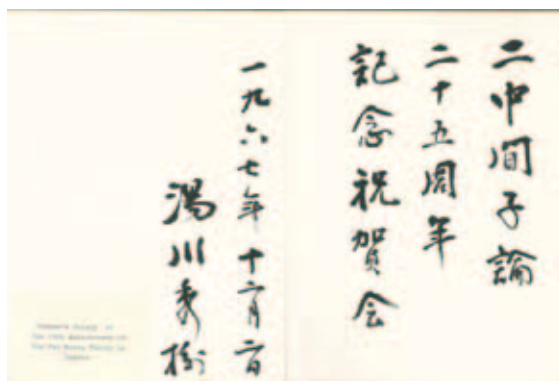
C-16-6-5-6 写真 餅つきをする坂田 (展示パネル)

- H-01 坂田昌一の机（展示予定）
H-06 額 原子核研究所より「日本で最初に創られた人工中間子」

- H-12-01 2 中間子論 25 周年記念祝賀会アルバム、芳名帳 1967 年
アルバム写真より（坂田、益川、二宮、湯川）



芳名帳 湯川の記帳



- H-12-03 恩賜賞メダル（1950 年第 40 回、2 中間子理論により）



H-12-04

勲二等 瑞寶章 1970 年



H-12-12

C-Meson Theory の茶碗 (文章：梅沢、筆：亀淵)



H-14

坂田胸像 (1981 年 清水多嘉示 作) 展示中



ノーベル賞展示室内 坂田昌一展示



坂田史料展示棚



(吉川直志)